



PJP-50R

IP 電話会議システム

ProjectPhone



取扱説明書（設置・設定編）

ヤマハPJP-50Rをお買い上げいただきありがとうございます。
お使いになる前に本書をよくお読みになり、正しく設置や設定を行ってください。
本書の警告や注意を必ず守り、正しく安全にお使いください。
本書はなくさないように、大切に保管してください。

はじめにお読みください

ヤマハ PJP-50R をお買い上げいただきありがとうございます。

本機はインターネットや企業内 LAN などのネットワークや、アナログ電話回線を経由して、多地点・多人数で同時通話できる IP 電話会議システムです。

付属品をご確認ください

- ・ AC アダプター (1 個)
- ・ LAN ケーブル (1 本)
- ・ モジュラーケーブル (1 本)
- ・ 電源コード (1 本)
- ・ 取扱説明書 (基本操作編) (1 冊)
- ・ 取扱説明書 (設置・設定編) (1 冊)
- ・ 保証書 (1 枚)

最新情報をご確認ください

この取扱説明書は、2007 年 10 月現在の最新版ファームウェアに基づいております。ファームウェアのリビジョンアップ (バージョンアップ) を行い、新しい機能が追加されたり既存の機能が改善されたりすることにより、やむをえず本機の実際の動作と取扱説明書の記述が相違する場合があります。

リビジョンアップや、最新情報につきましては、下記のプロジェクツトフォンサポート Web ページをご覧ください。最新の機能の詳細などについて解説しています。

<http://www.yamaha.co.jp/projectphone/download/firm/index.html>

リビジョンアップの手順につきましては、「最新の機能を利用する (リビジョンアップ)」(42 ページ) をご覧ください。

本書の表記について

略称について

本書ではそれぞれの製品について、以下のように略称で記載しています。

- ・ Yamaha PJP-50R : 本機
- ・ Microsoft® Windows® : Windows
- ・ Microsoft® Windows XP® : Windows XP
- ・ 10BASE-T (100BASE-TX) ケーブル : LAN ケーブル

設定例について

本書に記載されている IP アドレスやドメイン名、URL などの設定例は、説明のためのものです。実際に設定するときは、必ず実際のネットワーク構成に合わせた設定値をお使いください。

詳細な技術情報について

本機を使いこなすためには、インターネットやネットワークに関する詳しい知識が必要となる場合があります。付属のマニュアルではこれらの情報について解説しておりませんので、詳しくは市販の解説書などを参考にしてください。

商標について

- ・ イーサネットは富士ゼロックス社の登録商標です。
- ・ Microsoft、Windows、Microsoft Excel は米国 Microsoft 社の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Adobe、Acrobat は米国 Adobe Systems 社の登録商標です。

目次

本書はPJP-50Rの取扱説明書（設置・設定編）です。本機の各部名称や基本的な操作については、取扱説明書（基本操作編）をご覧ください。

はじめに

はじめにお読みください	2
付属品をご確認ください	2
最新情報をご確認ください	2
本書の表記について	2
安全上のご注意	4
本機を安全にお使いいただくために	4
マークの意味	4
警告	5
注意	6
使用上のご注意	7
本製品のお客様サポートについて（サポート規定）	8

設置する

準備の流れ	9
準備を始める前にご確認ください	9
準備 1：接続する	11
準備 2：設定を登録する	12
LAN：ネットワーク情報を DHCP サーバーから取得する	12
LAN：ネットワーク情報を手動で指定する	13
電話回線：電話回線の種類を設定する	16
準備 3：会議室に設置する	17
設置時のご注意	17

設定する

本機の設定を変更する	18
本体のキー操作で設定を変更する	18
「WEB 設定ページ」で設定を変更する	19
本機の機能を設定する	20
IP ネットワーク情報を登録する	20
電話機能を設定する	21
サウンド設定	23
環境設定	26
通話履歴の管理	27
パスワードの設定	28
同一サブネット内のプロジェクトフォンを呼び出す	28
出荷状態に戻す	28
日付・時刻を設定する	29
日付・時刻を手動で設定する	29
SNTP サーバーを使用して日付・時刻を設定する	29
アドレス帳を編集する	30
通話先をアドレス帳に新規登録する	30
アドレス帳の情報を編集する	31
SIP サーバーを使用する	32
SIP サーバーの情報を登録する	32
SIP サーバー使用時のご注意	32
SIP サーバー使用中の画面表示	33
複数のプロジェクトフォンを階層状に接続する （カスケード接続）	34
カスケード接続とは？	34
本機の設定を変更する	35
カスケード接続を使用して通話する	36
カスケード接続中の画面表示	36
プロジェクトフォンを連結接続する	37
本機を外部機器に接続する	38
パソコン・テレビ会議システムなどとの接続	38
ヘッドフォン出力端子・マイク入力端子との接続	39
パソコンの設定を変更する	40
最新の機能を利用する（リビジョンアップ）	42
本機から自動的にリビジョンアップする	43
ファームウェア入手して 手動でリビジョンアップする	44

その他の情報

故障かな？と思ったら	46
Q1: LED 類が消灯している	46
Q2: 「WEB 設定ページ」で設定できない	47
Q3: 通話できない	47
Q4: その他の問題	48
本機の設定を初期化する	49
サポート用の設定情報を取得する	51
設定情報を取得する	51
本機の動作ログを確認する（Syslog）	52
サポート窓口のご案内	53
お問い合わせの前に	53
お問い合わせ窓口	53
主な仕様	54
本機を譲渡／廃棄する際のご注意	55

基本操作編（別冊）

はじめに

はじめにお読みください	2
付属品をご確認ください	2
最新情報をご確認ください	2
本書の表記について	2

本機について

本機の特長	4
各部の名称とはたらき	5
上面	5
側面	6
底面	6
画面の見かた	7

IP ネットワークを経由した通話

IP ネットワークを経由して通話する	8
通話相手呼び出す	8
アドレス帳から相手呼び出す	9
通話履歴から相手呼び出す	10
呼び出しを受ける	10
IP ネットワークを経由した通話中の操作	11
複数拠点間で通話する	13
複数拠点間での通話中の画面表示と音声出力	14

電話回線を経由した通話

電話回線を経由して通話する	15
通話相手呼び出す	15
アドレス帳から相手呼び出す	16
通話履歴から相手呼び出す	17
呼び出しを受ける	17
電話回線を経由した通話中の操作	18

その他の情報

故障かな？と思ったら	21
Q1: LED 類が消灯している	21
Q2: 通話できない	22
Q3: その他の問題	23

安全上のご注意

本機を安全にお使いいただくために

以下の点を必ず守ってお使いください。

安全のための注意事項を守る

詳しくは、5～6ページをご覧ください。

故障したら使用を中止する。

お買い上げの販売店またはヤマハのお問い合わせ窓口（53 ページ）にご連絡ください。

マークの意味

本書では、本機を安全にお使いいただくため、守っていただきたい事項に次のマークを表示していますので、必ずお読みください。



警告

人体に危険を及ぼしたり、装置に大きな損害を与える可能性があることを示しています。必ず守ってください。



注意

機能停止を招いたり、各種データを消してしまう可能性があることを示しています。十分注意してください。

- ・ 本書の記載内容の一部または全部を無断で転載することを禁じます。
- ・ 本書の内容および本体や「WEB 設定ページ」の仕様は、改良のため予告なく変更されることがあります。
- ・ 本機を使用した結果発生した情報の消失等の損失については、当社では責任を負いかねます。保証は本機の物損の範囲に限ります。あらかじめご了承ください。

警告

本機を安全にお使いいただくために、下記の注意事項をよくお読みください。

- 本機（付属品を含む）は日本国内仕様であり、海外の規格などには準拠していません。
- 本機は一般オフィス向けの製品であり、人の生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される分野に適応するには設計されていません。
本機を誤って使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 付属の電源コードは国内用です。AC100Vのコンセントに接続して使用してください。
- 本機から発煙や異臭がするとき、内部に水分や薬品類が入ったとき、および電源コードが発熱しているときは、直ちに電源コードをコンセントから抜いてください。そのまま使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。
- 濡れた手で電源コードを触らないでください。感電や故障の原因となることがあります。
- 電源コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- 電源コードの上に重いものを載せたり、電源コードをステーブルで止めたりしないでください。火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- 安全のため、電源コードは容易に外すことのできるコンセントに接続してください。
家具の後ろなど、手の届かない場所にあるコンセントには接続しないでください。
- 本機を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。内部の部品が破損し、感電や火災、故障の原因となります。
- 本機を分解したり、改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- 電源を入れたままケーブル類を接続しないでください。感電や故障、本機および接続機器の破損の原因となることがあります。
- 本機のポートに指や異物を入れないでください。感電や故障、ショートの原因となります。
- 本機を他の機器と重ねて置かないでください。熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
- 近くに雷が発生したときは、電源コードやケーブル類を取り外し、使用をお控えください。
落雷によって火災や故障の原因となることがあります。
- 本機を下記の場所には設置しないでください。水滴の混入により、火災や感電の原因となります。
 - － 浴室、加湿器を過度にきかせた部屋など
 - － 雨や雪、水がかかるところ

⚠ 注意

本機を安全にお使いいただくために、下記のご注意をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。

- 本機のコネクタ部分には直接手を触れないでください。本機は静電気に敏感な部品を使用しているため、部品が故障するおそれがあります。
- 電源プラグのほこり等は定期的にふき取ってください。ほこり等が付着した状態で使用すると、故障や動作不良の原因となります。
- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。正しく接続しないと、故障や動作不良の原因となります。
- 直射日光や暖房器等の風が当たる場所、温度や湿度が高い場所には本機を設置しないでください。故障や動作不良の原因となります。
- 極端に温度が低い場所や温度差が大きい場所、結露が発生しやすい場所で本機を使用しないでください。故障や動作不良の原因となります。結露が発生した場合は、電源コードをコンセントから抜き、乾燥させ、充分室温に慣らしてから使用してください。
- ほこりが多い場所や油煙が飛ぶ場所、腐蝕性ガスがかかる場所、磁界が強い場所に置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。アース接続は必ず、電源コードをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源コードをコンセントから取りはずしてから行ってください。
- 本機を修理や移動等の理由により輸送する場合には、必ず本機の設定を記録しておいてください。

使用上のご注意

- 本機の使用方法や設定を誤って使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 誤動作や故障により本機の記録内容が変化・消失する場合があります。通話履歴などの重要なデータはお客様の責任のもと、定期的に記録されることをおすすめいたします。
- 本機のご使用にあたり、周囲の環境によっては電話、ラジオ、テレビなどに雑音が入る場合があります。この場合は本機の設置場所、向きを変えてみてください。
- 本機を譲渡する際は、取扱説明書などの付属品も同時に譲渡してください。
- 本機を廃棄する場合には不燃物ゴミとして廃棄してください。または、お住まいの自治体の指示に従ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

高調波について

JIS C 61000-3-2 適合品

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性-第3-2部：限度値-高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

本製品のお客様サポートについて（サポート規定）

ヤマハ株式会社は本製品を快適に、またその性能・機能を最大限に活かしたご利用が可能となるように以下の内容・条件にてサポートを提供します。

1. サポート方法

- ① FAQ、技術情報、設定例、ソリューション例等の Web 掲載
- ② 電話でのご質問への回答
- ③ お問い合わせフォームからのご質問への回答
- ④ カタログ送付
- ⑤ 代理店・販売店からの回答
ご質問内容によっては代理店・販売店へご質問内容を案内し、代理店・販売店よりご回答させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

2. サポート項目

- ① 製品仕様について
- ② お客様のご利用環境に適した弊社製品の選定について
- ③ 簡易なネットワーク構成での利用方法について
- ④ 製品の修理について
- ⑤ 代理店または販売店のご紹介

3. 免責事項・注意事項

- ① 回答内容につきましては正確性を欠くことのないように万全の配慮をしていますが、回答内容の保証、及び回答結果に起因して生じるあらゆる事項について弊社は一切の責任を負うことはできません。
また、サポートの結果又は製品をご利用頂いたことによって生じたデータの消失や動作不良等によって発生した経済的損失、その対応のために費やされた時間的・経済的損失、直接的か間接的かを問わず逸失利益等を含む損失及びそれらに付随的な損失等のあらゆる損失について弊社は一切の責任を負うことはできません。
尚、これらの責任に関しては弊社が事前にその可能性を知らされていた場合でも同様です。但し、契約及び法律でその履行義務を定めた内容は、その定めるところを遵守するものとします。
- ② ファームウェアの修正は弊社が修正を必要と認めたものについて生産終了後2年間行います。
- ③ 実ネットワーク環境での動作保証、性能保証は行っていません。
- ④ 期日・時間指定のサポート、及び海外での使用、日本語以外でのサポートは行っていません。
- ⑤ お問い合わせの回答を行うにあたって、必要な情報のご提供をお願いする場合があります。情報のご提供がない場合は適切なサポートができない場合があります。
- ⑥ 再現性がない、及び特殊な環境でしか起きない等の事象に関しては、解決のための時間がかかったり適切なサポートが行えない場合があります。
- ⑦ オンサイト保守・定期保守等は代理店にて有償で行います。詳細な内容は代理店にご確認をお願いします。
- ⑧ 他社サービス、他社製品、及び他社製品との相互接続に関するサポートは弊社 Web 上に掲載している範囲に限定されます。
- ⑨ やむを得ない事由により本機の返品・交換が生じた場合は、ご購入店経由となります。
尚、交換、返品に際してはご購入店、ご購入金額を証明する証憑が必要となります。
- ⑩ 製品の修理は代理店・販売店経由で受付けます。弊社への直接持ち込みはできません。また、着払いでの修理品受付は行っていません。発送は弊社指定の通常宅配便（国内発送のみ）にて行います。修理完了予定期間は変更になる場合がありますのであらかじめご了承ください。尚、保証期間中の無償修理（無償例外事項）等の詳細規定は保証書に記載してあります。
- ⑪ 上記サポート規定は予告なく変更されることがあります。

準備の流れ

本機を利用するには、以下の順序で準備を行う必要があります。

準備 1 (11 ページ)

本機を IP ネットワークまたは電話回線に接続し、電源を入れる



準備 2 (12 ページ)

設定を登録する

- LAN などの IP ネットワークを経由した通話を使用する場合は、「LAN：ネットワーク情報を DHCP サーバーから取得する」(12 ページ) または 「LAN：ネットワーク情報を手動で指定する」(13 ページ) をご覧ください。
- 電話回線を経由した通話を使用する場合は、「電話回線：電話回線の種類を設定する」(16 ページ) をご覧ください。
- 本機をパソコンまたはテレビ会議システムに接続する場合は、「本機を外部機器に接続する」(38 ページ) をご覧ください。



準備 3 (17 ページ)

本機を会議室に設置する

パソコンを使って設定を行うこともできます

この章では本機のキー操作で準備を行いますが、パソコンから本機の「WEB 設定ページ」にアクセスして設定操作を行うこともできます。詳しくは、19 ページをご覧ください。

ご注意

- アドレス帳の編集など、本機のキー操作のみでは設定できない機能もあります。
- 本機の「WEB 設定ページ」にアクセスするには IP ネットワークを経由した接続が必要です。

SIP サーバーを使用する環境で本機を運用する

パソコンから本機の「WEB 設定ページ」にアクセスして、設定を行う必要があります。詳しくは「SIP サーバーの情報を登録する」(32 ページ) をご覧ください。

準備を始める前にご確認ください

LAN ケーブル

(IP ネットワークへ接続する場合)

本機に付属する LAN ケーブルをご用意ください。

モジュラーケーブル

(電話回線へ接続する場合)

本機に付属するモジュラーケーブルをご用意ください。

音声接続ケーブル

(パソコンなどと接続する場合)

市販の音声接続ケーブル (ステレオミニケーブル) を 2 本をご用意ください。

※ ヒント

- 市販の LAN ケーブルを使用する場合は、10BASE-T または 100BASE-TX 対応の LAN ケーブルをご用意ください。
- 市販のモジュラーケーブルを使用する場合は、6 極 2 芯または 6 極 4 芯のモジュラーケーブルをご用意ください。
- テレビ会議システムは、機種によってライン入力／出力端子の形状が異なる場合があります。その場合はご使用のテレビ会議システムのライン入力／出力端子の形状に合ったプラグ形状の音声接続ケーブルをお使いください。テレビ会議システム側に接続するプラグの種類に関わらず、プロジェクトフォン側に接続するプラグはステレオミニプラグです。

本機を IP ネットワークに接続する際 の注意

- 本機をインターネット経由で使用する場合、基本的にグローバルIPアドレスを取得する必要があります。
- 本機を企業内 LAN で使用する場合、ファイアウォール外にある機器とは接続できません。ただし、ルータの設定変更で通信できる場合もありますので、詳しくはネットワーク管理者にご相談ください。
- 本機を導入・設置するために、以下の情報をあらかじめ入手・決定しておいてください。
 - 本機に設定する IP アドレスおよびサブネットマスク
 - 本機が利用するデフォルトゲートウェイおよび DNS サーバーの IP アドレス
- 本機の通話で使用するポート番号は、SIP 用は 5060 (UDP)、RTP/RTCP 用は 57000～57010 (UDP) です。ファイアウォールでこのポート番号の通信を遮断している場合は、通信を許可するように設定を変更してください。
- 本機を導入する前に、ネットワークの帯域やデータ通信量、ネットワーク機器の性能などを十分確認し、必要な伝送帯域が確保できることをご確認ください。確認せずに導入すると、通話時に音切れが発生したりするだけでなく、通話が成立しない可能性があります。本機使用上において必要な伝送帯域については、「主な仕様」(54 ページ)をご覧ください。

本機を接続する電話回線について

本機は以下の電話回線での通話に対応しています。

- アナログ回線 (ISDN などのデジタル回線には対応していません)
- モジュラージャック付きのコンセントであること

※ ヒント

電話回線のコンセントがモジュラージャックに対応していない場合は、市販の変換器をご使用ください。

ご注意

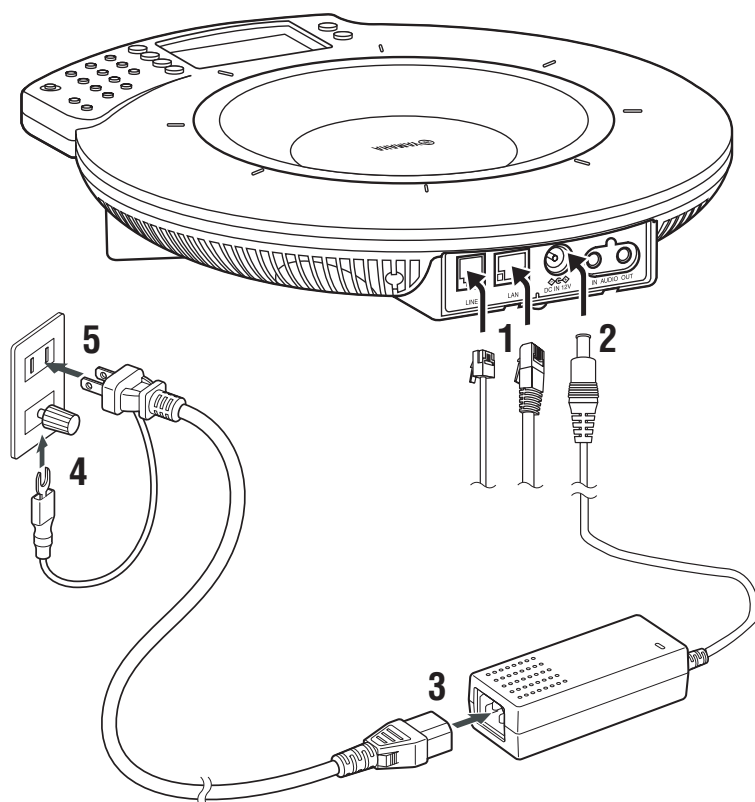
電話回線の変換工事は、電気通信事業法に基づき、資格を有する工事担任者が施工する必要があります。電話回線を変換する場合は、ご使用の電話回線の管理業者またはお近くの電話会社にお問い合わせください。

PBX (構内電話交換機) を経由して電話回線に接続する

本機を接続可能な電話回線は 2 線式 RJ-11 アナログ PBX 回線に限られています。接続する電話回線がご不明な場合は、電話設備を管理されているご担当部署にお問い合わせください。

準備 1：接続する

以下の手順で本機をネットワークや電話回線に接続してから、ACアダプターを接続します。



1 使用する通信用のケーブルを接続する。

- ・ LANケーブルを使って本機のLANポートをネットワークに接続する。
- ・ モジュラーケーブルを使って本機のLINEポートを電話回線に接続する。

2 DC IN 12V 端子に AC アダプターを接続する。

3 電源コードを AC アダプターに接続する。

4 アースコードをコンセントのアース端子に接続する。

ご注意

アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

5 電源コードをコンセントに接続する。

本機の電源が入り、マイクインジケーターが順に点灯します。

※ヒント

電源コードを取り外す際は、先に電源コードをコンセントから取り外してから、アースコードを取り外してください。

準備2：設定を登録する

本機を接続するネットワークや回線に合わせて、各種設定を登録します。

インターネットやLANなどを経由して通話する場合

DHCPサーバーを使用する場合としない場合で設定項目が異なります。

DHCPサーバーを使用する場合

「LAN：ネットワーク情報をDHCPサーバーから取得する」をご覧ください。

DHCPサーバーを使用しない場合

「LAN：ネットワーク情報を手動で指定する」（13ページ）をご覧ください。

公衆電話回線を経由して通話する場合

「電話回線：電話回線の種類を設定する」（16ページ）をご覧ください。

LAN：ネットワーク情報をDHCPサーバーから取得する

DHCPサーバーを設置したネットワーク内で本機を使用する場合、設定に必要なネットワーク情報はすべてDHCPサーバーから割り当てられるので、特に設定を行う必要はありません。

正しくネットワーク情報を取得できていることを確かめる

以下のように、「Tel & IP ready」または「IP ready」と表示されていることを確認してください。

IP 設定 完了
IP ready
(192.168.100.200)
2007.09.20 12:16:14
▼:メニュー▲:アドレス帳

※ヒント

表示されない場合や「??? ??. ??? ??. ???」が表示される場合は、ネットワーク情報を正しく取得していません。

LAN：ネットワーク情報を手動で指定する

DHCP サーバーを利用しない設定に切り替えてから、ネットワーク情報を登録します。

ご注意

設定を始める前に、ネットワークに正常に接続できていることを確認してください。LAN ポートのLED が点灯していない場合は、本機がネットワークに正しく接続されていません。

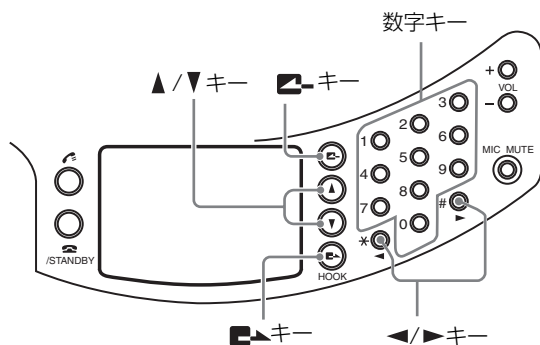
- LAN ケーブルが正しく接続されているかどうか確認してください。
- LAN ケーブルの接続先ネットワークの状態もあわせて確認してください。

確認が終わったら、以下の手順にしたがって、本機のネットワーク情報を登録してください。

※ヒント

本機の工場出荷時のネットワーク情報設定は以下の通りです。

- IP アドレス：192.168.100.200
- サブネットマスク：255.255.255.0
- デフォルトゲートウェイ：0.0.0.0
- DNS サーバー：0.0.0.0



- 1 **■キーを繰り返し押し続けて初期画面を表示する。**

DHCP サーバーが存在する場合には DHCP サーバーから取得した IP アドレスが表示されます。IP アドレスが正しく取得できない場合は IP アドレスは表示されません。

IP 設定画面

2007.09.20 12:16:14

▼:メニュー ▲:アドレス帳

- 2 **▼キーを押す。**

メニューが表示されます。

メニュー
> 1. 設定
2. 通話履歴
3. オンライン



- 3 **▲または▼キーを押して「設定」を選び、■キーを押す。**

設定メニュー画面が表示されます。

設定メニュー
> 1. ネットワーク設定
2. 電話設定
3. サウンド設定 ↓



- 4 ▲または▼キーを押して「ネットワーク設定」を選び、**Enter**キーを押す。

ネットワーク設定の項目選択画面が表示されます。

ネットワーク設定
 > 1. DHCP
 2. IPアドレス
 3. サブネットマスク
Enter ▼ ▲ **Enter**

- 5 ▲または▼キーを押して「DHCP」を選び、**Enter**キーを押す。

DHCPの設定画面が表示されます。

DHCP
 > 1. 使用する
 2. 使用しない
Enter ▼ ▲ **Enter**

- 6 ▲または▼キーを押して「使用しない」を選び、**Enter**キーを押す。

ネットワーク設定の項目選択画面に戻ります。

ネットワーク設定
 > 2. IPアドレス ↑
 3. サブネットマスク
 4. ゲートウェイ ↓
Enter ▼ ▲ **Enter**

- 7 ▲または▼キーを押して「IPアドレス」を選び、**Enter**キーを押す。

IPアドレスの設定画面が表示されます。

IP アドレス
 192.168.100.200
 (192.168.100.200)
Enter **Enter** [*] [#]

- 8 数字キーを使って本機のIPアドレスを入力し、**Enter**キーを押す。

入力したIPアドレスが登録され、ネットワーク設定の項目選択画面に戻ります。

ネットワーク設定
 1. DHCP
 > 2. IPアドレス
 3. サブネットマスク
Enter ▼ ▲ **Enter**

ご注意

LAN内にすでに設置されている他の機器のIPアドレスと重複しないIPアドレスを設定してください。

- 9 ▲または▼キーを押して「サブネットマスク」を選び、**Enter**キーを押す。

サブネットマスクの設定画面が表示されます。

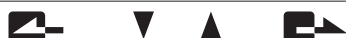
サブネットマスク
 255.255.255.000
 (255.255.255.000)
Enter **Enter** [*] [#]

10 数字キーを使ってサブネットマスクを入力し、キーを押す。

入力したサブネットマスクが登録され、ネットワーク設定の項目選択画面に戻ります。

ネットワーク設定

1. DHCP
2. IPアドレス
- > 3. サブネットマスク ↓



13 ▲または▼キーを押して「DNS サーバー」を選び、キーを押す。

DNS サーバーの設定画面が表示されます。

DNS サーバー

000.000.000.000

(000.000.000.000)



11 ▲または▼キーを押して「ゲートウェイ」を選び、キーを押す。

デフォルトゲートウェイの設定画面が表示されます。

ゲートウェイ

000.000.000.000

(000.000.000.000)



14 数字キーを使って本機が参照する DNS サーバーの IP アドレスを入力し、キーを押す。

入力した DNS サーバーが登録され、ネットワーク設定の項目選択画面に戻ります。

ネットワーク設定

3. サブネットマスク
4. ゲートウェイ
- > 5. DNSサーバー ↓



12 数字キーを使ってデフォルトゲートウェイを入力し、キーを押す。

入力したデフォルトゲートウェイが登録され、ネットワーク設定の項目選択画面に戻ります。

ネットワーク設定

2. IPアドレス ↑
3. サブネットマスク
- > 4. ゲートウェイ ↓



15 キーを繰り返し押して初期画面を表示し、本機の IP アドレスが表示されていることを確認する。



IP ready

(192.168.100.200)

2007.09.20 12:16:14

▼:メニュー ▲:アドレス帳

電話回線：電話回線の種類を設定する

電話回線を経由して通話をする場合は、接続する電話回線の種類を設定する必要があります。

1  キーを繰り返し押し、初期画面を表示する。

2  キーを押す。
メニューが表示されます。

メニュー
> 1. 設定
2. 通話履歴
3. オンライン



3  または  キーを押して「設定」を選び、 キーを押す。

設定メニュー画面が表示されます。

設定メニュー
> 1. ネットワーク設定
2. 電話設定
3. サウンド設定



4  または  キーを押して「電話設定」を選び、 キーを押す。

電話設定の項目選択画面が表示されます。

電話設定
> 1. ダイヤル種別
2. フッキング時間
3. プレフィックス



5  または  キーを押して「ダイヤル種別」を選び、 キーを押す。

電話回線の種類の選択画面が表示されます。

ダイヤル種別

1. 20PPS
2. 10PPS
> 3. プッシュ



- ・20PPS：お使いの電話回線がパルス回線（20pps）の場合に選択します。
- ・10PPS：お使いの電話回線がパルス回線（10pps）の場合に選択します。
- ・プッシュ（初期設定）：お使いの電話回線がトーン回線の場合に選択します。

※ヒント

電話回線の種類が分からない場合は、ご利用の電話会社にお問い合わせください。

6  または  キーを押してご使用の電話回線の種類を選び、 キーを押す。

電話設定の項目選択画面が表示されます。

電話設定

> 1. ダイヤル種別
2. フッキング時間
3. プレフィックス



準備3：会議室に設置する

設定が終わったら、本機を会議室などの実際に会議を行う場所に設置します。

設置時のご注意

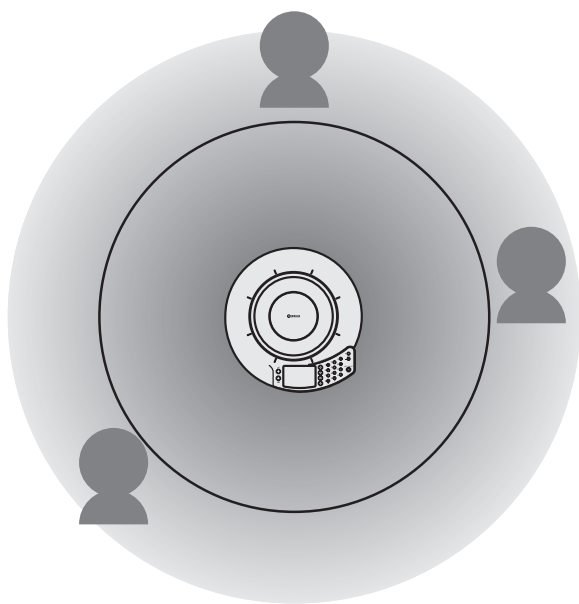
設置環境について

本機のスピーカーは本体底面に下向きに配列されております。机上に水平に設置し、下には物等を置かないでください。

設置した台や机が平坦でないなどの理由で本機が安定しない場合は、本体底面のアジャスターを使用して脚部の高さを調整してください。

発話者の着座位置について

本機は周囲360度全ての方向の音声を収録することができます（マイクモードが「ゾーン」の場合）。収録可能なエリアは利用環境や設定によって異なります。詳しくは「収録エリアを選ぶ（マイクモード）」（23ページ）をご覧ください。



本機の設定を変更する

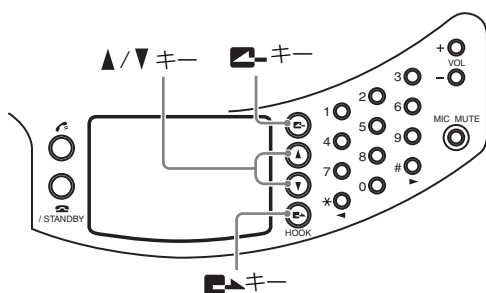
本機の設定の変更は、本体の操作キーまたは本機に接続したパソコンのWeb ブラウザを使って行います。

ご注意

- 一部の設定はパソコンから本機の「WEB 設定ページ」にアクセスして設定する必要があります。
- 設定メニューの構成や設定項目ごとの設定内容については、「本機の機能を設定する」(20 ページ) をご覧ください。

本体のキー操作で設定を変更する

本体のキー操作で設定を変更する場合は、以下の手順で操作します。



1 キーを繰り返し押して、初期画面を表示する。

2 初期画面で▼キーを押す。
メニュー画面が表示されます。

メニュー
> 1. 設定
2. 通話履歴
3. オンライン



3 「設定」を選び、 キーを押す。
設定メニュー画面が表示されます。

設定メニュー
> 1. ネットワーク設定
2. 電話設定
3. サウンド設定 ↓



4 ▲または▼キーを押して設定したい項目の種類を選び、 キーを押す。

設定画面が表示されます。下図は「ネットワーク設定」を選んだ場合の例です。

ネットワーク設定
> 1. DHCP
2. IPアドレス
3. サブネットマスク!



設定メニューの構成については、「本機の機能を設定する」(20 ページ) をご覧ください。

5 設定を変更する。

下図は、「IP アドレス」を選んだ場合の例です。

IP アドレス
192.168.100.200
^
(192.168.100.200)
 [*] [#]

設定項目ごとの設定内容については、「本機の機能を設定する」(20 ページ) をご覧ください。

6 設定が終わったら キーを押す。

設定内容が保存されます。

※ヒント

設定を保存せずに前の画面へ戻る場合は、 キーを押します。

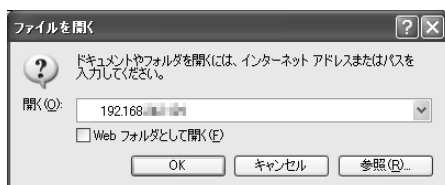
「WEB 設定ページ」で設定を変更する

複数の項目をまとめて設定する場合は、パソコン経由で本機の「WEB 設定ページ」を使用して設定すると便利です。

ご注意

- 「WEB 設定ページ」で設定を変更する際は、Microsoft Windows XP または Windows 2000 を搭載したパソコンを使用してください。
- 本機の「WEB 設定ページ」にアクセスするには IP ネットワークを経由した接続が必要です。

- 1 本機の電源が入っていることを確認する。
- 2 パソコンで Web ブラウザを起動し、「ファイル」メニューから「開く」を選ぶ。
- 3 「http:// (本機の IP アドレス)」と半角英数で入力し、「OK」をクリックする。



「WEB 設定ページ」メイン画面が表示されます。



「WEB 設定ページ」メイン画面が表示されないときは
「Q2: 「WEB 設定ページ」で設定できない」(47 ページ) をご覧ください。

本機の機能を設定する

以下の説明中の  は本体の操作キーによる設定、 はパソコン経由の「WEB 設定ページ」による設定に対応していることを示します。

IP ネットワーク情報を登録する

IP ネットワークを経由して通話をする際の各種設定を登録します。

ご注意

この設定は電話回線を経由した通話には影響しません。

DHCP を使用するかどうかを指定する



DHCP を使用して本機のネットワーク情報を自動的に割り当てる場合は「使用する」、使用せずにネットワーク情報を手動で指定する場合は「使用しない」を選びます。初期設定値は「使用する」です。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「ネットワーク設定」→「DHCP」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「DHCP」を選ぶ。

本機の IP アドレスを登録する

DHCP を使用しない場合に、本機の IP アドレスを登録します。初期設定値は「192.168.100.200」です。

ご注意

DHCP サーバーを設置したネットワーク内で本機の IP アドレスを指定する場合は、本機の「DHCP」設定を「使用しない」にする必要があります。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「ネットワーク設定」→「IP アドレス」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「IP アドレス」を選ぶ。

サブネットマスクを登録する

本機を接続しているネットワークのサブネットマスクを登録します。初期設定値は「255.255.255.0」です。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「ネットワーク設定」→「サブネットマスク」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「サブネットマスク」を選ぶ。

デフォルトゲートウェイを登録する



本機が参照するデフォルトゲートウェイを登録します。初期設定値は「0.0.0.0」です。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「ネットワーク設定」→「ゲートウェイ」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「デフォルトゲートウェイ」を選ぶ。

DNS サーバーを登録する

本機が参照する DNS サーバーを登録します。初期設定値は「0.0.0.0」です。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「ネットワーク設定」→「DNS サーバー」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「DNS サーバー」を選ぶ。

相手機との接続方法を指定する

(接続モード)

複数の拠点と接続する場合の接続方法を指定します。

- ・ **メッシュ** (初期設定値) : すべての拠点に対して別々のセッションを張って通信します。表示画面には、 と表示されます。
- ・ **カスケード親機** : カスケード接続を行う際に、親機として動作します。表示画面には、 と表示されます。
- ・ **カスケード子機** : カスケード接続を行う際に、子機として動作します。表示画面には、 と表示されます。
- ・ **オーディオデバイス** : LAN に接続されたパソコンのマイクスピーカーとして動作します。表示画面には、 と表示されます。この機能は、本機が以下のような状態でパソコンと接続されている場合に使用することができます。

ー 本機とパソコンが同一サブネット内に接続されている。

または

ー 本機とパソコンが LAN ケーブルで直接接続されている。

※ヒント

- メッシュ接続について詳しくは、「基本操作編」(別冊)の「複数拠点間で通話する」(13ページ)をご覧ください。
- カスケード接続について詳しくは、34 ページをご覧ください。
- 「接続モード」を「オーディオデバイス」に設定し、本機をパソコンのマイクスピーカーとして使用する場合は、あらかじめパソコンに専用のオーディオドライバーをインストールしておくことが必要となります。オーディオドライバーと取扱説明書は、以下のサイトからダウンロードすることができます。
<http://www.yamaha.co.jp/projectphone/download/appli/>
- オーディオドライバーのインストールと操作については、上記のWeb サイト、またはオーディオドライバーの取扱説明書をご覧ください。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「ネットワーク設定」→「接続モード」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「接続モード」を選ぶ。

SIP サーバーを使用するかどうかを指定する

SIP サーバーを使用して通話する場合は「使用する」、使用しない場合は「使用しない」を選びます。初期設定値は「使用しない」です。なお「WEB 設定ページ」で設定を行う場合は、あわせて SIP サーバーの名前とパスワードを入力してください。詳しくは 32 ページをご覧ください。

ご注意

- 本体キーによる操作で「使用する」を選んでも、「WEB 設定ページ」で SIP サーバーの名前とパスワードが登録されていない場合、SIP サーバーを使用した通話は利用できません。
- SIP サーバーを使用して通話する場合は、本機の SIP アドレスも登録する必要があります。詳しくは 32 ページをご覧ください。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「ネットワーク設定」→「SIP サーバー」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「SIP サーバー」を選ぶ。

無音時の音声データを圧縮する

(無音圧縮)

通話中にマイクが無音を検出したときの音声データの送信状態を設定します。

- 使用する**：マイクが無音状態を検出した場合、次に音声を検出するまで音声データの送信を停止します。
- 使用しない**(初期設定値)：マイクが無音を検出した場合でも、音声データを送信します。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「ネットワーク設定」→「無音圧縮」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「無音圧縮」を選ぶ。

電話機能を設定する

電話回線を経由して通話する際の各種設定を登録します。

ご注意

この設定は LAN などの IP ネットワークを経由した通話には影響しません。

電話回線の種類を設定する

接続する電話回線の種類を設定します。

- 20PPS**：お使いの電話回線がパルス回線(20pps)の場合に選択します。
- 10PPS**：お使いの電話回線がパルス回線(10pps)の場合に選択します。
- プッシュ**(初期設定)：お使いの電話回線がトーン回線の場合に選択します。

※ヒント

電話回線の種類が分からない場合は、ご利用の電話会社にお問い合わせください。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「電話設定」→「ダイヤル種別」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「ダイヤル種別」を選ぶ。

フッキングの送出時間を設定する



フッキングによる転送操作を行う際の、フッキング信号の送出時間を設定します。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「電話設定」→「フッキング時間」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「フッキング時間」を選ぶ。

プレフィックスを設定する



使用するネットワークを識別するためのプレフィックスを設定します。プレフィックスを設定できる発信形式は、「電話番号」「IP 内線番号 (IP 番号)」「アドレス帳番号」です。

初期設定

- 電話番号：なし
- IP 番号：8#
- アドレス帳：9#

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「プレフィックス」を選ぶ。

※ヒント

本体キーで初期画面から「メニュー」→「設定」→「電話設定」→「プレフィックス」を選び、現在設定されているプレフィックスを確認することができます。本体キーで設定を変更することはできません。

ご注意

- 設定によっては、緊急電話番号（警察・消防など）に電話をかけることができなくなる、あるいは、意図せずに緊急電話番号につながってしまうケースが考えられます。ご注意ください。
- 複数の発信形式に同じプレフィックスを設定することはできません。

電話機能を使用する国を設定する



本機を使用する国を設定し、検出する電話回線の周波数を切り替えます。設定できる国は以下の通りです。

- カナダ
- 中国
- 欧州 1
- 欧州 2
- 日本（初期設定値）
- イギリス
- アメリカ
- その他

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「電話設定」→「国番号」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定」ページで「国番号」を選ぶ。

ご注意

本機は日本国内用です。海外で使用することはできません。

日本・中国用の電話回線機能を設定する



日本または中国で本機を使用する際の電話回線の設定機能を設定します。

「国番号」の設定が「日本」の場合

- **動作モード 1**（初期設定値）：通常はこの設定でご使用ください。電話会社から送出されるナンバーディスプレイ機能のための信号（CAR 信号）などを受信した際には、着信音を鳴らしません。
- **動作モード 2**：「動作モード 1」では内線通話などが正常に着信ができない場合に設定してください。電話会社から送出されるナンバーディスプレイ用の信号（CAR 信号）などを受信した際に、着信音を鳴らします。

「国番号」の設定が「中国」の場合

- **動作モード 1**（初期設定値）：香港・マカオ以外の地域の交換機に対応します。
- **動作モード 2**：香港またはマカオの交換機に対応します。

※ヒント

- 「国番号」が「中国」または「日本」以外に設定されている場合は、「回線設定」の設定は本機の機能に影響しません。
- 「国番号」を変更した場合、「回線設定」は自動的に「動作モード 1」に変更されます。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「電話設定」→「回線設定」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「回線設定」を選ぶ。

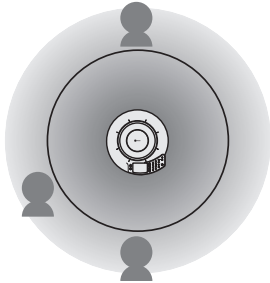
サウンド設定

收音エリアを選ぶ (マイクモード)

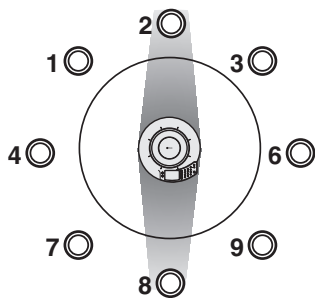


通話中のマイクによる收音エリアを指定します。

- ・ **ゾーン** (初期設定値) : 音声を広範囲に收音します。比較的静かな環境下での利用に適しています。初期画面には  が表示されます。



- ・ **スポット** : マイクの收音エリアを狭い指向性で固定します。発話者が1～2人に限定されている場合や、周囲にプロジェクターなどの騒音源が存在する環境に適しています。「マイクモード」設定画面で数字キーを押して、收音を有効にするエリアを指定します。押したキーに合わせて、選択した期0をそれに対面する方向のエリアが有効／無効になります。下の図は、20のキーを押した場合の有効範囲です。

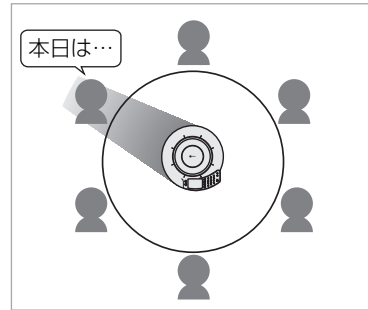


收音が有効な方向のマイクインジケーター (青色LED) が点灯状態となり、初期画面には  が表示されます。

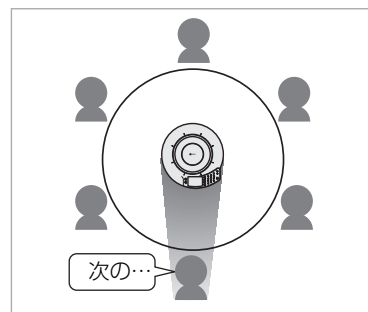
ヒント

指定できるのは向かい合ったエリア (1と9、2と8、3と7、4と6) のセットのみです。

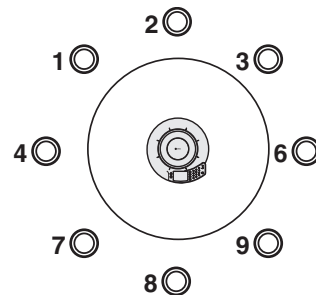
- ・ **追尾** : 発話者の音声を自動追尾します。非常に狭い指向性で收音できるため、発話者の音声以外の周囲雑音を大幅に低減することができます。雑音や騒音が比較的多い環境で、音声をよりクリアに收音したい場合に適しています。同時に收音できる発話者は1人のみです。



▼ 発話者の方向を自動追尾



「マイクモード」設定画面で数字キーを押して、追尾を無効にするエリアを指定します。数字キーを押すたびに、下の図に示された対応する方向への追尾の有効／無効が切り替わります。



- ・ 收音が有効な方向 (現在の発話者の方向) のマイクインジケーター (青色LED) のみが点灯し、初期画面には  と表示されます。

ヒント

- ・ 50 キーを押すと、すべてのエリアの追尾が有効になります。
- ・ 複数のエリアを同時に指定することもできます。

本体キーによる設定

初期設定から「メニュー」→「設定」→「サウンド設定」→「マイクモード」を選ぶ。

※ヒント

初期画面または通話中の画面で  キーを長押しして、「マイクモード」設定画面を表示することができます。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「マイクモード」を選ぶ。

音声出力モードを選ぶ



通話中の音声出力方法を指定します。

- **マルチ** (初期設定値)：相手の音声を分離して出力します。初期画面には、 と表示されます。3 拠点との同時通話の場合は左／中央／右、2 拠点との場合は左／右と、通話先の拠点数にあわせて自動的に再生場所を割り当てます。電話回線を経由して接続している通話先は、常に中央から音声を出力します。
- **モノラル**：相手の音声を分離せずに出力します (モノラル音声出力)。初期画面には、 と表示されます。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「サウンド設定」→「スピーカーモード」を選ぶ。

※ヒント

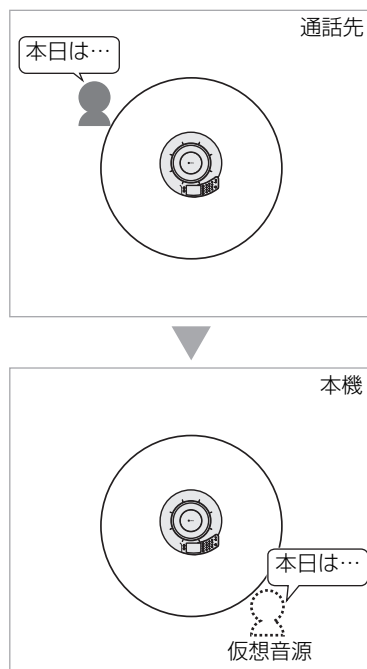
初期画面または通話中の画面で  キーを長押しして、「スピーカーモード」設定画面を表示することができます。

「WEB 設定ページ」による設定

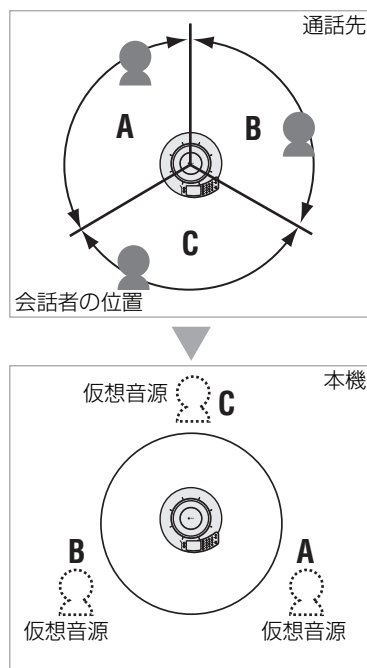
「WEB 設定ページ」で「スピーカーモード」を選ぶ。

「マルチ」に設定した場合の 1 拠点との通話での音声出力

1 拠点との通話で「スピーカーモード」を「マルチ」に設定した場合、通話先での会話者の位置に対応して、右の図のように本機側に会話者の仮想音源を作り出します。



会話者の仮想音源の作り出される位置は、会話者の位置によって下の図のように変わります。



※ヒント

通話先が電話回線を経由して別の拠点と接続している場合は、その拠点の仮想音源は通話先の発話者の仮想音源と同じ位置に作り出されます。

部屋の大きさに合わせる (ルームサイズ)

部屋の大きさや使用環境にあわせてルームサイズを設定します。通常の使用環境では、「大」(初期設定値)のままお使いください。

- ・ **大** (初期設定値) : 一般的な会議室やオープンスペース、オフィスで使用する場合に選びます。通話品質は一番安定します。表示画面には、 と表示されます。
- ・ **中** : 初期設定値では通話先でエコーが発生する場合に選びます。自機を反響しやすい部屋で使用する場合になどに選んでください。表示画面には、 と表示されます。
- ・ **小** : 「中」設定でも通話先でエコーが発生する場合に選びます。初期画面には、 と表示されます。

ご注意

- ・ ルームサイズは通話先でエコーが発生する場合に、通話先のエコーを軽減するための機能です。自機でエコーが発生した場合に自機のルームサイズを変更しても、効果はありません。
- ・ 「中」、「小」に変更することによりエコー処理能力は上がりますが、通話品質は低下します。エコーが発生する場合にのみ、変更してください。

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「サウンド設定」→「ルームサイズ」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「ルームサイズ」を選ぶ。

外部機器を接続する場合に設定を変更する (外部入出力)

本機をPCやTV会議システムなどの外部機器と接続して使用する際や、複数のプロジェクトフォンを連結して使用する際に設定します。詳しくは「プロジェクトフォンを連結接続する」(37 ページ) または「本機を外部機器に接続する」(38 ページ) をご覧ください。

- ・ **なし** : 外部入出力を無効にします。
- ・ **オーディオ** (初期設定値) : 本機に外部オーディオ機器を接続する場合、この設定を選びます。初期画面には、 と表示されます。
- ・ **連結 (親)** : 連結接続する際に、親機のPJP-50Rではこの設定を選びます。初期画面には、 と表示されます。
- ・ **連結 (子)** : 連結接続する際に、子機のPJP-50Rではこの設定を選びます。初期画面には、 と表示されます。

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「サウンド設定」→「外部入出力」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「外部入出力」を選ぶ。

※ ヒント

- ・ 連結接続する際は、プロジェクトフォンをそれぞれ 2 m 以上離して設置してください。
- ・ 連結接続する際は、ルームサイズを「小」に設定してください。
- ・ 3 台のプロジェクトフォン (親機、子機 1、子機 2) を連結接続する場合は、親機の AUDIO OUT 端子を子機 1 の AUDIO IN 端子、子機 1 の AUDIO OUT 端子を子機 2 の AUDIO IN 端子、子機 2 の AUDIO OUT 端子を親機の AUDIO IN 端子に接続し、親機の外部入出力を「連結 (親)」、子機の外部入出力を「連結 (子)」に設定します。

音声のエンコード方式を選ぶ (CODEC)



本機は通話開始時に相手の通信端末とネゴシエーションし、相手の端末が対応するエンコード方式に合わせて最適なエンコード方式を自動選択します。このメニューは本機が選択するエンコード方式の選択範囲を設定します。

例えばプロジェクトフォン以外の音声会議システムとの通話で、相手機が G.711 拡張のエンコード方式に対応していない場合は、「G.711」を選びます。その場合、本機は相手機が対応するエンコード方式に合わせて G.711 μ -law 方式、G.711 A-law 方式または G.726-32 方式の中から最適なエンコード方式を選択します。

- ・ **G.711 拡張** (初期設定値)
- ・ **G.711**
- ・ **G.726-32**

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「サウンド設定」→「CODEC」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「CODEC」を選ぶ。

音量を調整する

マイクによる音声の入力音量や AUDIO IN/OUT 端子から入出力される音量を調整します。

- ・ **マイク**：本機のマイクが集音する音量を調整します。
- ・ **オーディオ入力**：AUDIO IN 端子から入力される音量を調整します。
- ・ **オーディオ出力**：AUDIO OUT 端子から出力される音量を調整します。

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「サウンド設定」→「音量微調整」を選ぶ。

※ヒント

- ・ これらの音量の調整は▼または▲キーで行います。
- ・ 可変範囲：－12.0dB～12.0dB (0.5dB ステップ)
- ・ 初期設定値：0dB

ご注意

利用環境によっては、これらの音量の設定を変更することで音が歪む原因となることがあります。その場合は歪みがなくなるまで各音量の設定値を下げてください。

ナチュラルボイスエンハンサー機能を設定する

受信した音声の高音域を拡張することで音声の聞き取りやすさを改善します。

- ・ **使用する**
- ・ **使用しない**（初期設定値）

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「サウンド設定」→「ボイスエンハンサー」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「ナチュラル ボイス エンハンサー」を選ぶ。

ご注意

この設定はオーディオケーブルで接続された外部機器から入力された音声には影響しません。

環境設定

着信音の音量を指定する

着信音の音量を指定します。本体の VOL + / - キーを押して指定します。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「環境設定」→「着信音量」を選ぶ。

※ヒント

着信音量の設定中はテストトーンとして着信音が鳴ります。
1○キーを押すと IP ネットワーク用の着信音、2○キーを押すと電話回線用の着信音、3○キーを押すと電話回線を経由した内線通話用の着信音にそれぞれ切り替わります。設定される音量は IP ネットワークと電話回線で共通です。

リモート制御機能を使用する

この機能は将来の拡張用です。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「環境設定」→「リモート制御」を選ぶ。

バックライトを消灯するまでの時間を指定する

無通話時に本機が自動的に本機のディスプレイのバックライトを消灯するまでの時間を、「切替なし」（初期設定値）または「3分」、「5分」、「10分」、「30分」から選びます。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「環境設定」→「バックライトオフ時間」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「バックライトオフ時間」を選ぶ。

本機表示部の明るさを指定する

本機表示部の明るさを指定します。本体の VOL + / - キーを押して指定します。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「環境設定」→「LCD コントラスト」を選ぶ。

メニュー言語を切り替える（言語）



- ・ **英語**：メニュー言語を英語で表示するときに、この設定を選びます。
- ・ **日本語**（初期設定値）：メニュー言語を日本語で表示するときに、この設定を選びます。
- ・ **中国語**：メニュー言語を中国語で表示するときに、この設定を選びます。

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「環境設定」→「言語」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「言語」を選ぶ。

日付・時刻を手動で設定する

本機に内蔵された時計の日付・時刻を手動で設定します。詳しくは「日付・時刻を手動で設定する」(29ページ)をご覧ください。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「環境設定」→「時計」を選ぶ。

タイムゾーンを設定する

本機をご使用になる地域の時間帯を設定します。UTC(世界協定時)を基準に±1時間単位で設定します。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「時計設定」→「タイムゾーン」を選ぶ。

サマータイムを設定する

本機をご使用になる地域でサマータイムが適用されている場合には、「オン」に設定します。通常は「オフ」に設定します。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「時計設定」→「サマータイム」を選ぶ。

同期に使用する SNTP サーバーを指定する

SNTPサーバー(時刻配信サーバー)を使用して自動で時刻合わせを行う場合は、SNTPサーバーの名称またはIPアドレスを入力します。詳しくは「日付・時刻を設定する」(29ページ)をご覧ください。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「時計設定」→「SNTPサーバー」を選ぶ。

SNTP の同期間隔を指定する

SNTPサーバーを使用して本機の時刻合わせを自動で行う場合に、時刻合わせの周期を分単位で指定します。詳しくは「日付・時刻を設定する」(29ページ)をご覧ください。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「時計設定」→「SNTP同期間隔」を選ぶ。

通話履歴の管理

本機の通話履歴を確認する

本機の通話履歴をWEB 設定ページで確認することができます。本機は最大50件の通話記録を保存します。

Setting Home > 通話履歴

時刻	通話種別	相手
1. 2006-11-13 20:59:00	電話 着信	非通知
2. 2006-11-13 20:58:34	電話 発信	567(YAMAHA)
3. 2006-11-13 20:58:28	IP 着信	133.176.42.236
4. 2006-11-13 20:58:15	IP 発信	133.176.42.236

表示される内容

- **時刻**：通話開始時の日時が表示されます。
- **通話種別**：通話の方式(電話/IPネットワーク)と通話の種別(着信/発信/不在着信/多地点)が表示されます。メッシュ接続(20ページ)時に自動的に発着信した場合は「多地点」と表示されます。
- **相手**：通話相手のIPアドレス、SIPアドレス、IP内線番号または電話番号が表示されます。アドレス帳に通話相手が登録されている場合は相手の名前も表示されます。

ご注意

- 正しい時刻情報を取得するには、本機内蔵の時計の設定が必要です。
- 電話回線による通話の場合、着信した電話番号は「非通知」と表示されます。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「通話履歴」を選ぶ。

パスワードの設定

「WEB 設定ページ」にパスワードを設定する

パスワードを設定し、「WEB 設定ページ」への不正アクセスや管理者以外のユーザーによる重要な設定の変更を防ぐことができます。

保護される設定は以下の通りです。

- ネットワーク設定
- 電話設定
- 設定の保存
- 出荷状態に戻す
- ファームウェアの更新
- 「WEB 設定ページ」による設定

パスワードを設定する

本体キーによる設定

初期画面から「設定」→「環境設定」→「パスワード」→「パスワード設定」を選び、数字キーを使用して4桁のパスワードを設定する。

既にパスワードが設定されている場合は、「旧」の欄に現在設定されているパスワードを入力します。「新」の欄に設定するパスワードを入力し、確認のため、「再入力」の欄にパスワードを再入力します。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「パスワードを設定する」を選択し、4桁の数字を入力する。

パスワードを解除する

初期画面から「設定」→「環境設定」→「パスワード」→「パスワード解除」を選び、数字キーを使用して4桁のパスワードを入力する。

パスワードが解除され、保護された設定を変更できるようになります。

※ ヒント

- 初めてパスワードを設定する場合は、現在のパスワード欄は空欄のままにします。
- パスワードが設定された状態で、本体キーを使用して保護された設定メニューを選ぶと、パスワードの入力画面が表示されます。5分間キー操作がなかった場合、本機は再度保護状態となります。
- パスワードを設定した場合は、ファームウェアを本機に転送する際にパスワードの入力を要求されます。その場合は、この機能で設定したパスワードを入力してください。
- パスワードが解除された後は設定は保護されません。再度設定を保護する場合は、パスワードを再設定してください。

- パスワードを忘れてしまった場合、本機を出荷状態に戻すことができなくなります。その場合は以下の「マスターパスワード」を使用して、出荷状態に戻してください。マスターパスワードは「WEB 設定ページ」からのみ入力ができます。

マスターパスワード

シリアル・ナンバーの最初から2番目の英数字を除いた文字列

例：シリアル・ナンバーが「NP4012345」の場合
→マスターパスワード：「N4012345」

同一サブネット内のプロジェクトフォンを呼び出す

LANなどのIPネットワークに接続している際に、同一サブネット内で通信可能なプロジェクトフォンを検索し、呼び出すことができます。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「オンライン」を選び、その後で通話する相手先を指定する。

出荷状態に戻す

本機の設定を工場出荷状態に戻す



本機の設定を工場出荷状態に戻します。詳しくは、「本機の設定を初期化する」(49ページ)をご覧ください。

ご注意

工場出荷状態に戻すと、各設定項目の内容やアドレス帳および通話履歴の内容はすべて消去されます。

本体キーによる設定

初期画面から「メニュー」→「設定」→「出荷状態に戻す」を選ぶ。

- **はい**：本機のすべての設定を工場出荷状態に設定します。
- **アドレス帳を残す**：アドレス帳に登録されているデータ以外の全ての設定を工場出荷状態に設定します。
- **いいえ**：設定の変更を中止します。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「出荷状態に戻す」を選ぶ。

- **出荷状態に戻す**：本機の全ての設定を工場出荷状態に設定します。
- **アドレス帳以外を出荷状態に戻す**：アドレス帳に登録されているデータ以外のすべての設定を工場出荷状態に設定します。

日付・時刻を設定する

日付・時刻を手動で設定する

1  キーを繰り返し押しして初期画面を表示する。

2 初期画面で▼キーを押す。
メニューが表示されます。

3 ▲または▼を押して「設定」を選び、 キーを押す。
設定メニュー画面が表示されます。

4 ▲または▼を押して「環境設定」を選び、 キーを押す。
環境設定の項目選択画面が表示されます。

5 ▲または▼を押して「時計」を選び、 キーを押す。
現在の日付・時刻の入力画面が表示されます。

6 数字キーを使って現在の日付と時刻を入力し、 キーを押す。
入力した日付・時刻が設定され、環境設定の項目選択画面に戻ります。

ヒント

ご使用になる地域のタイムゾーンやサマータイムを設定することができます。詳しくは、27 ページをご覧ください。

SNTP サーバーを使用して 日付・時刻を設定する

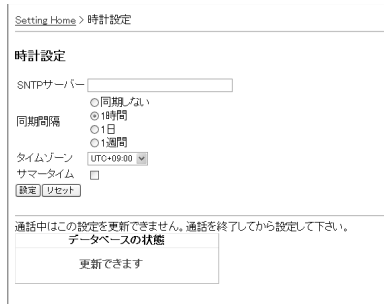
SNTP サーバー（時刻配信サーバー）を利用して、本機の日付・時刻を一定時間ごとに自動的に合わせることができます。

ご注意

本機を設置した LAN のセキュリティ設定によっては、SNTP サーバーを利用して時刻を合わせられない場合があります。外部の SNTP サーバーを利用する場合は、ルーターなどの設定を変更してください。詳しくは、お使いのルーターなどの取扱説明書をご覧ください。

1 「WEB 設定ページ」画面で「時計設定」をクリックする。

「SNTP」画面が表示されます。



2 「SNTP サーバー」欄に、本機が利用する SNTP サーバーの名前または IP アドレスを入力する。

3 「同期間隔」欄で、SNTP サーバーとの同期間隔をクリックして選ぶ。

4 「設定」をクリックする。

設定が登録され、「WEB 設定ページ」に戻ります。

アドレス帳を編集する

頻繁に使用する通話先を本機のアドレス帳に登録できます。

通話先をアドレス帳に新規登録する

1 「WEB 設定ページ」で「アドレス帳の閲覧・編集」をクリックする。

「アドレス帳」画面が表示されます。

Setting Home > アドレス帳

アドレス帳

	名前	アドレス		
1	大阪支店	192.168.1.100	edit	del
2	第1会議室	135	edit	del
3	中沢出張所	0534510000	edit	del
4			edit	del
5			edit	del
6			edit	del
7			edit	del
8			edit	del

2 通話先を登録する行の「edit」をクリックする。

「レコードを編集する」画面が表示されます。

Setting Home > アドレス帳 > レコードを編集する

レコードを編集する

	名前	アドレス
1	IPアドレス	大阪支店 192.168.1.100
2	IP内線	第1会議室 135
3	電話	中沢出張所 0534510000
4		
5	SIPアドレス	Los Angeles Branch
6		
7		
8		

設定 リセット

3 「名前」欄に、通話先の名前を半角 29 文字以内で入力する。

4 登録する通話先の情報の種類を選ぶ。

Setting Home > アドレス帳 > レコードを編集する

レコードを編集する

	名前	アドレス
1	IPアドレス	大阪支店 192.168.1.100
2	IP内線	第1会議室 135
3	電話	中沢出張所 0534510000
4		
5	SIPアドレス	Los Angeles Branch
6	SIPアドレス	
7	IP内線	
8	IPアドレス	

設定 リセット

- SIPアドレス: SIPアドレスを登録する場合
- 電話: 電話番号を登録する場合
- IP内線: IP内線番号 (33 ページ) を登録する場合
- IPアドレス: IPアドレスを登録する場合

5 通話先のアドレスや電話番号などを入力する。

手順 4 で選んだ種類の形式で入力します。

ご注意

- 登録したい相手が IP アドレスを DHCP サーバーから取得している場合は、相手の IP アドレスが変動する可能性があります。この場合は、アドレス帳に登録しても正しく発信できないことがありますので、ご注意ください。
- プレフィックスを入力する必要はありません。

6 「設定」をクリックする。

入力した通話先がアドレス帳に登録され、「アドレス帳」画面に戻ります。

※ ヒント

登録を中止する場合は「リセット」をクリックします。

登録可能な通話先の件数

本機のアドレス帳が登録できる通話先の件数は最大 50 件です。このうち、IP アドレスと SIP アドレスはそれぞれ最大 16 件まで登録できます。

アドレス帳の情報を編集する

1 「WEB 設定ページ」で「アドレス帳の閲覧・編集」をクリックする。

「アドレス帳」画面が表示されます。

Setting Home > アドレス帳

アドレス帳		
	名前	アドレス
1	大阪支店	192.168.1.100
2	第1会議室	135
3	中沢出張所	0534500000
4		
5		
6		
7		
8		

2 編集したい通話先の「edit」をクリックする。

「レコードを編集する」画面が表示されます。

Setting Home > アドレス帳 > レコードを編集する

レコードを編集する		
	名前	アドレス
1	IPアドレス 大阪支店	192.168.1.100
2	IP内線 第1会議室	135
3	電話 中沢出張所	0534500000
4		
5	SIPアドレス Los Angeles Branch	SIP-104@
6		
7		
8		

ヒント

登録されている通話先の情報を削除する場合は、「del」をクリックします。

3 通話先の情報を編集し、「設定」をクリックする。

編集内容がアドレス帳に登録され、「アドレス帳」画面に戻ります。

SIPサーバーを使用する

SIPサーバーの情報を登録する

本機をSIPサーバーを導入した環境で使用する場合は、本機が参照するSIPサーバーのアドレスおよび本機のSIPアドレスを登録する必要があります。なお、SIPサーバーへのアクセスにパスワード認証を設定している場合は、パスワードもあわせて入力する必要があります。詳しくはシステム管理者にお問い合わせください。

ご注意

この機能は、IPネットワークを経由した通話を使用する際にのみ有効です。また、SIPサーバーを導入していない場合は、この操作は必要ありません。

1 「WEB 設定ページ」で「SIPサーバー」をクリックする。

「SIP」画面が表示されます。

Setting Home > SIP

SIP

SIPサーバー ☐ 使用しない ☒ 使用する

SIPサーバー名

SIPサーバーのパスワード

SIPアドレス sip @

通話中はこの設定を更新できません。通話を終了してから設定して下さい。
データベースの状態

更新できます

2 「SIPサーバー」欄で、「使用する」を選ぶ。

3 「SIPサーバー名」欄に、SIPサーバーの名前またはIPアドレスを入力する。

4 SIPサーバーへのアクセスにパスワード認証を設定している場合は、「パスワード」欄にSIPサーバーの認証パスワードを入力する。

5 「SIPアドレス」欄に、本機に設定するSIPアドレスを入力する。

SIPアドレスは「sip: (sipアドレス)」の形式で入力してください。

入力例：

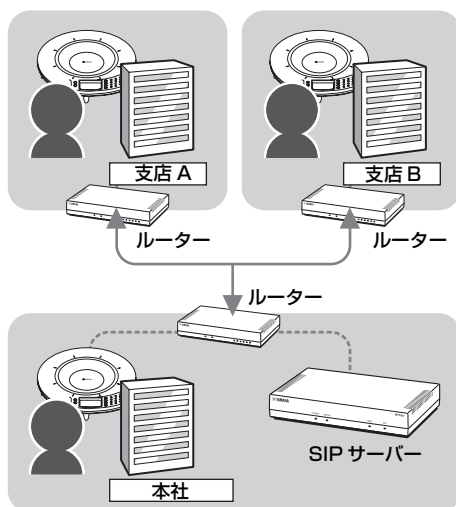
sip:sipuser@yamaha.co.jp

6 「設定」をクリックする。

設定が登録され、「WEB 設定ページ」に戻ります。

SIPサーバー使用時のご注意

- SIPサーバーを利用して通話するためには、本機のSIPアドレスをSIPサーバー側に別途登録する必要があります。
- SIPアドレスを使用しているプロジェクトフォンとIPアドレスを使用しているプロジェクトフォンの間で通話することはできません。
- プロジェクトフォンを接続しているルーターのWAN側のIPアドレスに、グローバルIPアドレスが割り当てられている必要があります。



相手機のユーザー ID をダイヤルして呼び出す (IP 内線番号発呼)

SIPアドレスのユーザーID部分を数字のみにして運用している場合は、相手機のユーザーID部分だけを数字キーで入力して相手呼び出すこともできます。

例：自機のSIPアドレスが

SIP:200@server1.net、

相手機がSIP:201@server1.netの場合

「201」と入力します。

ご注意

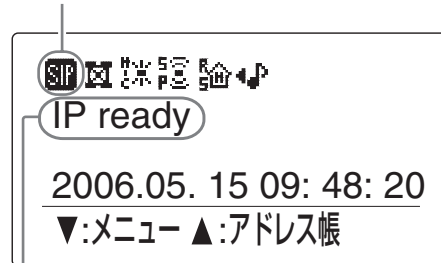
- この機能で呼び出すことのできる相手機は自機と同じドメインに所属するものに限られます。
- 他のドメインに所属する相手を呼び出したい場合は、あらかじめ相手機のSIPアドレスをアドレス帳に登録し、アドレス帳から発信してください。
- 初期設定ではプレフィックスは「8#」に設定されています。プレフィックスを変更することもできます。詳しくは「プレフィックスを設定する」(22ページ)をご覧ください。

SIP サーバー使用中の画面表示

初期画面の表示

SIPサーバーを使用する場合は、本機のIPアドレスは表示されません。

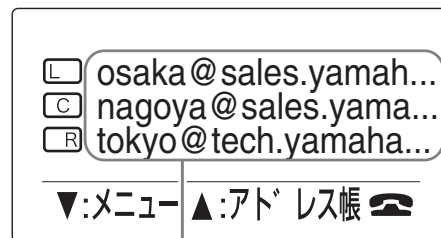
SIPサーバーを利用することを示します



「IP ready」または「Tel & IP ready」が表示されます。

通話中の画面表示

通話中は、本機と相手機のSIPアドレスが表示されます。



相手機のSIPアドレス

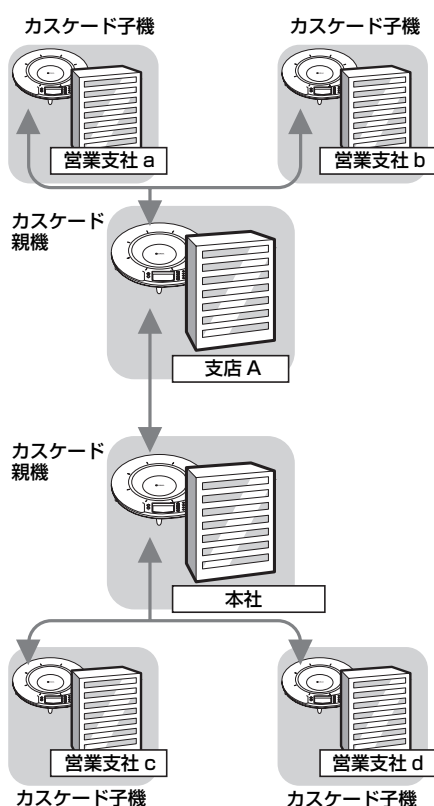
それ以外の画面の表示と音声の出力方法については、IPアドレスを使用して通話する場合と同様です。詳しくは、「基本操作編」(別冊)の「IPネットワークを経由して通話する」(8ページ)をご覧ください。

複数のプロジェクトフォンを階層状に接続する (カスケード接続)

カスケード接続とは？

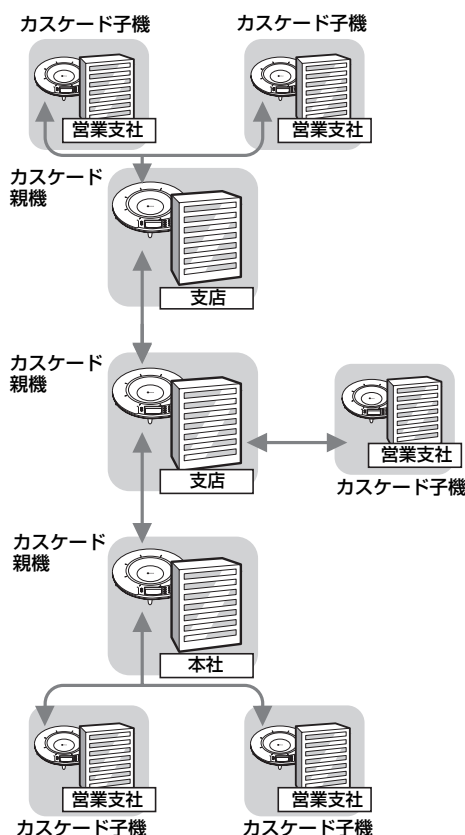
通話する複数台のプロジェクトフォンを親機と子機とに分け、複数台の子機と接続した親機同士を接続して通話します(カスケード接続)。通常の接続モード(メッシュ)の場合は最大で4拠点間のみの通話ですが、カスケード接続を利用すれば4拠点以上のプロジェクトフォン間で通話できるようになります。

例：本社と支店Aの2拠点で通話する場合に、それぞれの拠点で各2拠点の営業支社とも通話する



カスケード接続で利用できる最大接続拠点数

カスケード接続を利用した場合の最大接続拠点数は8拠点です。ただし8拠点接続を行う場合は、以下のように親機と子機を組み合わせる必要があります。



ご注意

カスケード接続を使用する場合は、通話に参加する拠点のプロジェクトフォンすべてをカスケード接続モードに切り替える必要があります。通常の接続方法(メッシュ)に設定されている端末は、カスケード接続に設定されている端末と通話できません。

本機の設定を変更する

カスケード親機の設定を変更してから、カスケード子機の設定を変更します。

カスケード親機の設定を変更する

1  キーを繰り返し押しして初期画面を表示する。

2 初期画面で▼キーを押す。
メニュー画面が表示されます。

メニュー
> 1. 設定
2. 通話履歴
3. オンライン ↓



3 「設定」を選び、 キーを押す。
設定メニュー画面が表示されます。

設定メニュー
> 1. ネットワーク設定
2. 電話設定
3. サウンド設定 ↓



4 ▲または▼キーを押して「ネットワーク設定」を選び、 キーを押す。
「ネットワーク設定」画面が表示されます。

ネットワーク設定
4. ゲートウェイ ↑
5. DNSサーバー
> 6. 接続モード ↓



5 ▲または▼キーを押して「接続モード」を選び、 キーを押す。

「接続モード」画面が表示されます。

接続モード
> 1. メッシュ
2. カスケード親機
3. カスケード子機 ↓



6 ▲または▼キーを押して「カスケード親機」を選び、 キーを押す。

設定内容が保存されます。

初期画面に戻って、画面上部に  アイコンが表示されていることを確認してください。

カスケード子機の設定を変更する

「カスケード親機の設定を変更する」の手順5で、「カスケード子機」を選びます。

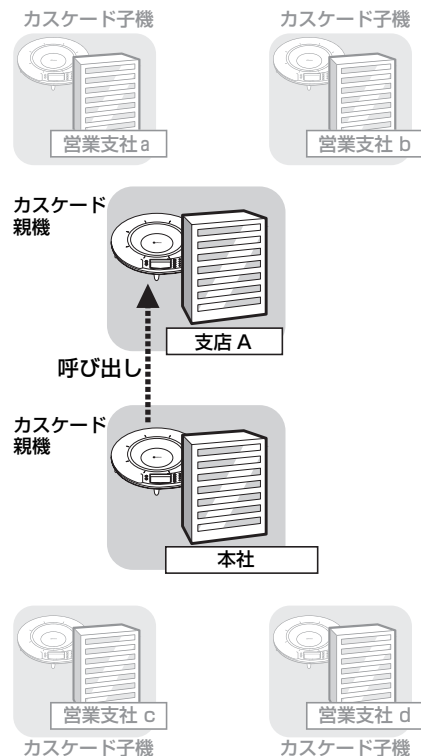
設定が終わったら初期画面に戻り、画面上部に  アイコンが表示されていることを確認してください。

カスケード接続を使用して通話する

カスケード接続を使用して通話をする場合、以下の手順で呼び出しをします。

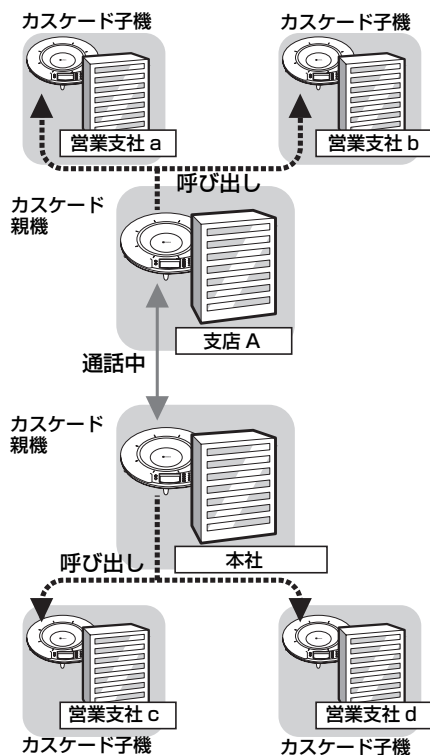
1 「カスケード親機」が相手先の親機を呼び出す。

呼び出しの方法は、通常の通話と同様です。詳しくは「基本操作編」(別冊)の「通話相手を呼び出す」(8ページ)をご覧ください。



2 接続が確立したら、本機に接続される「カスケード子機」をそれぞれ呼び出す。

呼び出しの方法は、通常の通話と同様です。

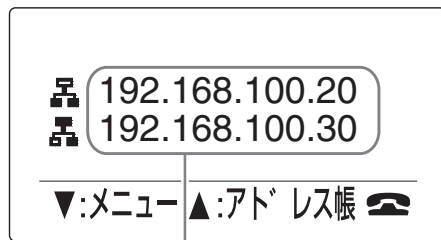


※ ヒント

先にカスケード子機を呼び出した後で、相手の親機と接続することもできます。

カスケード接続中の画面表示

通話中は相手の IP アドレスが表示されます。



相手の IP アドレス

IP アドレスの前に表示されるマークは、それぞれのカスケード接続の動作モードを示します。

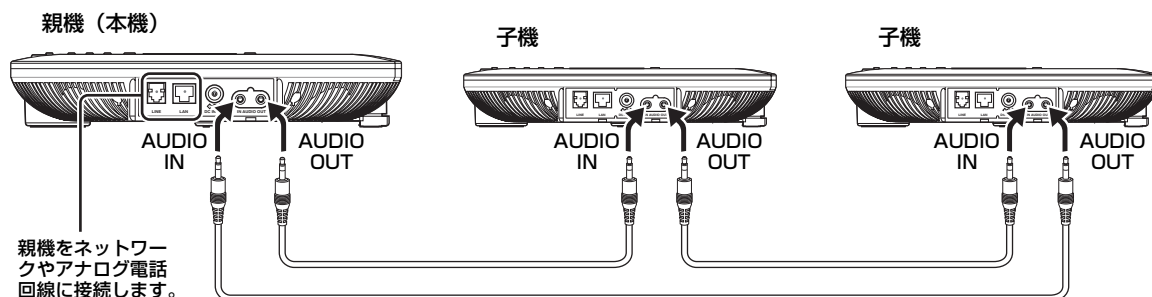
- ・ : 「カスケード親機」モードで動作しています。
- ・ : 「カスケード子機」モードで動作しています。

プロジェクトフォンを連結接続する

本機に複数のプロジェクトフォンを連結接続することにより、広い会議室や大人数の会議に対応することができます。接続可能な台数は設置環境によって異なります。

接続

市販の音声接続ケーブル（ステレオミニケーブル）でそれぞれのプロジェクトフォンのAUDIO OUT 端子とAUDIO IN 端子を接続します。下の図は、本機を含めて3台のプロジェクトフォンを連結する場合の例です。



設定する

親機の設定

「外部入出力」を「連結（親）」に設定します。

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「サウンド設定」→「外部入出力」→「連結（親）」を選ぶ。
表示画面に  アイコンが表示されます。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」→「外部入出力」で「連結（親）」を選ぶ。

子機の設定

「外部入出力」を「連結（子）」に設定します。

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「サウンド設定」→「外部入出力」→「連結（子）」を選ぶ。
表示画面に  アイコンが表示されます。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」→「外部入出力」で「連結（子）」を選ぶ。

※ヒント

- ・ 連結接続する際は、プロジェクトフォンをそれぞれ2 m以上離して設置してください。
- ・ 連結接続する際は、「ルームサイズ」を「小」に設定してください。
- ・ エコーやハウリングが発生する場合はそれぞれのプロジェクトフォンを離して設置するか、ボリュームを下げてください。
- ・ エコー防止のため、親機または子機として接続されているプロジェクトフォンのボリュームを同じ設定にしてください。

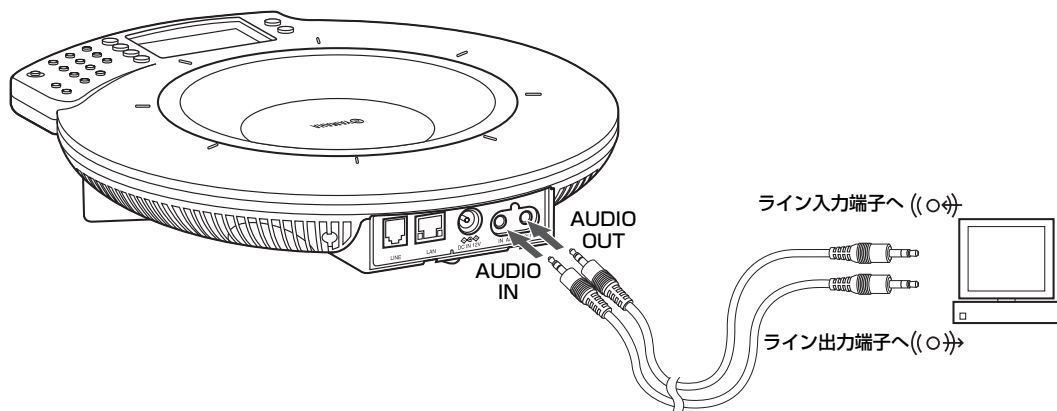
本機を外部機器に接続する

音声接続ケーブルを使って本機をパソコンやテレビ会議システムと接続し、本機を高性能・高音質なマイクスピーカーとして使用することができます。

パソコン・テレビ会議システムなどとの接続

音声接続ケーブルで接続する

市販の音声接続ケーブル（ステレオミニケーブル）を2本使用して接続します。



1 本機のAUDIO IN端子とパソコンやテレビ会議システムのライン出力端子を接続する。

2 本機のAUDIO OUT端子とパソコンやテレビ会議システムのライン入力端子を接続する。

3 「外部入出力」メニューを設定する。

「外部入出力」メニューの設定

「外部入出力」を「オーディオ」に設定します。

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「サウンド設定」→「外部入出力」→「オーディオ」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」→「外部入出力」で「オーディオ」を選ぶ。表示画面に、🔊アイコンが表示されます。

🔊 ヒント

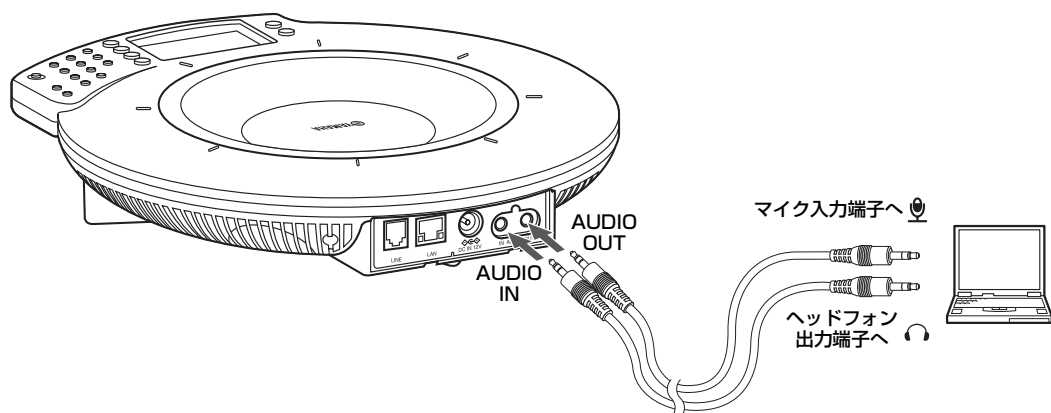
- ・利用環境によっては、音が歪んだり小さすぎたりすることがあります。その場合は、「音量微調整」メニューの「オーディオ入力」と「オーディオ出力」を調整してください。詳しくは26ページをご覧ください。
- ・この機能を利用するにはパソコンやテレビ会議システムの音声入出力に関する設定を変更する必要があります。パソコンの設定については「パソコンの設定を変更する」(40ページ)をご覧ください。
- ・テレビ会議システムは、機種によってライン入力／出力端子の形状が異なる場合があります。その場合はご使用のテレビ会議システムのライン入力／出力端子の形状に合ったプラグ形状の音声接続ケーブルをお使いください。テレビ会議システム側に接続するプラグの種類に関わらず、プロジェクトフォン側に接続するプラグはステレオミニプラグです。

ヘッドフォン出力端子・マイク入力端子との接続

ご使用のPCまたはテレビ会議システムがライン入出力端子を持たない場合はヘッドフォン出力端子とマイク入力端子を使用して本機に接続することができます。

音声接続ケーブルで接続する

市販の音声接続ケーブル（ステレオミニケーブル）を2本使用して接続します。



1 本機のAUDIO IN端子とパソコンのヘッドフォン出力端子を接続する。

2 本機のAUDIO OUT端子とパソコンのマイク入力端子を接続する。

3 「音声微調整」メニューと「外部入出力」メニューを設定する。

「音声微調整」メニューの設定

「オーディオ出力」を-6.0～-12.0dBに設定します。

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「サウンド設定」→「音量微調整」→「オーディオ出力」を選ぶ。

※ヒント

音量の調整は▲または▼キーで行います。

「外部入出力」メニューの設定

「外部入出力」を「オーディオ」に設定します。

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「サウンド設定」→「外部入出力」→「オーディオ」を選ぶ

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」→「外部入出力」で「オーディオ」を選ぶ。表示画面に🔊アイコンが表示されます。

※ヒント

- ・ 利用環境によっては、音が歪んだり小さすぎたりすることがあります。その場合は、「音量微調整」メニューの「オーディオ入力」と「オーディオ出力」を調整してください。詳しくは26ページをご覧ください。
- ・ この機能を利用するにはパソコンやテレビ会議システムの音声入出力に関する設定を変更する必要があります。パソコンの設定については「パソコンの設定を変更する」(40ページ)をご覧ください。

パソコンの設定を変更する

本機をパソコンを使用した会議システムのマイクスピーカーとして使用する場合は、本機からパソコンに入力された音声そのまま本機に再入力されないように設定を変更します。また、接続した端子から入力される音声を受け付けるように設定を変更する必要があります。

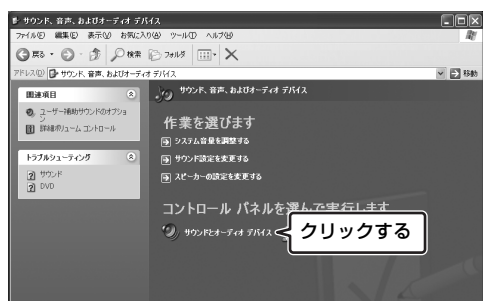
ご注意

設定画面の項目などは使用するパソコンにより異なります。ご使用の環境が以下の説明と異なる場合は、ご使用のパソコンまたはサウンドボードの取扱説明書を参照し、同様の設定を行ってください。

- 1 スタートメニューをクリックし、「設定」→「コントロールパネル」をクリックする。
- 2 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックする。



- 3 「サウンドとオーディオデバイス」をクリックする。



- 4 「オーディオ」タブをクリックする。

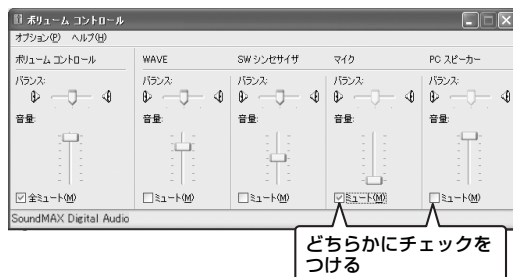


- 5 「音の再生」欄の「音量」をクリックする。



- 6 接続方法に応じて「ミュート」をクリックし、チェックをつける。

ライン入力端子に接続した場合は「PCスピーカー」、マイク入力端子に接続した場合は「マイク」をチェックします。

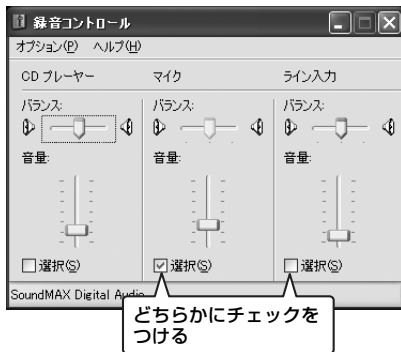


- 7 「録音」欄の「音量」をクリックする。



8 接続方法に応じて入力する音声を選択する。

ライン入力端子に接続した場合は「ライン入力」、マイク入力端子に接続した場合は「マイク」をチェックします。



最新の機能を利用する（リビジョンアップ）

インターネットから本機の機能を管理するプログラム（ファームウェア）をダウンロードして、最新の機能をご利用いただけます（リビジョンアップ）。リビジョンアップには、本機がインターネットに接続して最新のファームウェアを自動的にダウンロードする方法（43 ページ）と、ファームウェアを別途入手してから本機に手動で転送する方法（44 ページ）があります。

ソフトウェアライセンス契約

リビジョンアップ機能をご利用頂くには、以下のソフトウェアライセンス契約に同意頂く必要があります。

1. 使用許諾

本使用許諾契約の定めにご同意いただくことによりダウンロード可能となるヤマハプロジェクトフォン（以下、「本製品」という）用ファームウェア（以下、「本プログラム」という）はヤマハ株式会社（以下、「ヤマハ」という）がお客様に使用許諾するものです。本使用許諾契約は、ダウンロードした本プログラム及び本使用許諾契約に基づいて作成された複製物に適用されます。

2. 再配布の禁止

本プログラムは、本製品の機能アップグレードを目的とした場合に限りダウンロードすることができます。不特定多数の者によるアクセスが可能なウェブ・サイトなどにアップロード、掲示することはヤマハの許可を得た場合を除きできないものとします。

3. 複製物の作成

バックアップ目的及び、複数の本製品のアップグレードに必要な場合を除き、本プログラムの複製物の作成はできないものとします。

4. 逆コンパイル、リバースエンジニアリング、逆アセンブルの禁止

お客様は、本プログラム又はその一部を、逆コンパイルし、リバースエンジニアリングし、逆アセンブルし、修正し、再使用許諾し、頒布し、二次的著作物を創作しないものとします。

5. 責任の制限

過失を含むいかなる場合であっても、ヤマハは、本使用許諾契約に起因するお客様側の損害について一切の責任を負いません。

6. 外国為替法及び外国貿易法による規制

本プログラムは、「外国為替及び外国貿易法第25条第1項」に基づいて規制される技術（役務）に該当します。このため、本プログラム、及び本プログラムをインストールした本製品の日本国外への持ち出しには、日本政府による輸出許可が必要となる場合があります。また、本プログラムの、日本国内に住所を持たない人への提供にも、日本政府による許可が必要となる場合があります。

7. 日本に居住する人への限定提供

本プログラムは、日本国内に居住する法人または個人にのみ提供されるものとします。

8. 日本国法令の準拠

本使用許諾契約は、日本国の法令に準拠し、これに基づいて解釈されるものとします。

本機から自動的にリビジョンアップする

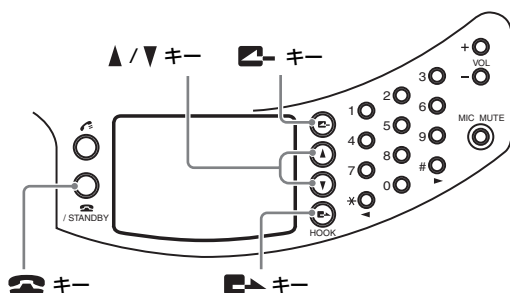
ご注意

- 本機がインターネットに接続できない環境にある場合は、自動的にリビジョンアップできません。「ファームウェアを入手して手動でリビジョンアップする」(44ページ)をご覧ください。
- リビジョンアップを始めたら、リビジョンアップが完了して本機が自動的に再起動するまで他の操作は絶対にしないでください。万一、中断したときは本機が使用なくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。
- リビジョンアップが完了すると本機は全ての通信を切断し、自動的に再起動します。
- リビジョンアップ中は、絶対に電源ケーブルを抜かないでください。本機が使用なくなり、持ち込み修理が必要となる場合があります。

※ヒント

ファームウェア入手のための接続先を任意に指定することもできます(44ページ)。

以下の手順で操作します。



1 キーを繰り返し押して、初期画面を表示する。

2 初期画面で▼キーを押す。
メニュー画面が表示されます。

メニュー
> 1. 設定
2. 通話履歴
3. オンライン



3 ▲または▼キーを押して「設定」を選び、 キーを押す。

設定メニュー画面が表示されます。

設定メニュー

> 1. ネットワーク設定
2. 電話設定
3. サウンド設定 ↓



4 ▲または▼キーを押して「ファームウェアの更新」を選ぶ。

設定メニュー

5. 設定の保存と変更 ↑
6. 出荷状態に戻す
> 7. ファームウェアの更新



5 キーを押す。

「ファームウェアを更新する」画面が表示されます。

ファームウェアを更新する

ver. 1.30

1. はい
> 2. いいえ



6 ▲または▼キーを押して「はい」を選び、 キーを押す。

本機がインターネットに接続して、最新ファームウェアをダウンロードします。ダウンロードが完了すると、自動的にリビジョンアップが始まります。

※ヒント

ファームウェアのダウンロードをキャンセルする場合は キーを押します。

リビジョンアップには約1時間かかります

リビジョンアップ中は、MIC MUTE キーのLED が点滅します。LED 点滅中は、本機の電源を切らないでください。

リビジョンアップが終了すると

本機は自動的に再起動します。

「WEB 設定ページ」上部の「プログラムバージョン」欄で、リビジョン番号が更新されていることを確認してください。

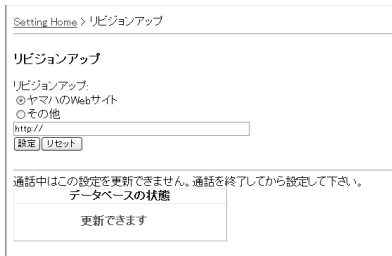


ファームウェア入手のための接続先を任意に指定する

社内のプロジェクトフォンで使用するファームウェアのバージョンを管理したい場合などに便利です。

1 「WEB 設定ページ」の「リビジョンアップ設定」をクリックする。

「リビジョンアップ」画面が表示されます。



2 「その他」を選び、リビジョンアップ実行時に接続する URL を入力する。

3 「設定」をクリックする。

本機で自動的にリビジョンアップを実行する際に接続する URL が変更されます。

常に最新のファームウェアを利用できるようにするには

手順2で「ヤマハのWeb サイト」を選びます。

ファームウェアを入手して手動でリビジョンアップする

本機がインターネットに接続できない環境にある場合は、あらかじめ最新のファームウェアを入手し、TFTPを使用してパソコンから本機にファームウェアを転送することでリビジョンアップします。

1. 現在のリビジョン番号を確認する

「WEB 設定ページ」上部の「プログラムバージョン」欄を確認してください。



2. 最新のファームウェアを入手する

パソコンでプロジェクトフォンのサポートページからダウンロードのページにアクセスし、最新のファームウェアを入手します。

プロジェクトフォンのサポートページ

<http://www.yamaha.co.jp/projectphone/download/firm/index.html>

3. ファームウェアを本機に転送する

ご注意

- ・リビジョンアップを始めたら、リビジョンアップが完了して本機が自動的に再起動するまで他の操作は絶対にしないでください。万一、中断したときは本機が使えなくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。
- ・リビジョンアップが完了すると本機はすべての通信を切断し、自動的に再起動します。
- ・リビジョンアップ中は、絶対に電源ケーブルを抜かないでください。本機が使えなくなり、持ち込み修理が必要となる場合があります。

以下の手順で操作します。

1 キーを繰り返し押し続けて、初期画面を表示する。

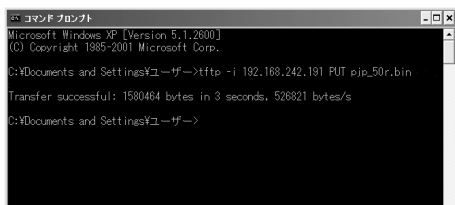
2 本機の「WEB 設定ページ」にアクセスできる Windows パソコンで、「コマンドプロンプト」を起動する。

Windows XPの場合は、「スタート」メニューをクリックしてから、「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」をクリックします。

3 以下のコマンドを入力して、実行する。

tftp -i [本機のIPアドレス] put [ファイル名]
入力例：

```
tftp -i 192.168.0.6 put pjp 50r 113.bin
```



 ヒント

ファームウェアのあるディレクトリをカレントディレクトリにした後で上記のコマンドを実行してください。

4 本機のディスプレイにリビジョンアップの確認画面が表示されたら、 キーを押す。

リビジョンアップが始まります。

リビジョンアップには約 1 分間かかります

リビジョンアップ中は、MIC MUTE キーの LED が点滅します。LED 点滅中は、本機の電源を切らないでください。

リビジョンアップを中止する場合は

手順4で キーを押します。

リビジョンアップが終了すると

本機は自動的に再起動します。
「WEB 設定ページ」上部の「プログラムバージョン」欄で、リビジョン番号が更新されていることを確認してください。



故障かな？と思ったら

以下の項目を確認してください。

1. はじめにマイクインジケータが点灯しているかどうか確認してください

消灯している場合は

「Q1：LED 類が消灯している」（本ページ）をご覧ください。

2. 発生した問題に合わせて、説明ページをご覧ください

- ・ Q2：「WEB 設定ページ」で設定できない（47 ページ）
- ・ Q3：通話できない（47 ページ）
- ・ Q4：その他の問題（48 ページ）

※ ヒント

Q1～Q4の説明で問題が解決しない場合は、サポート窓口までご相談ください（53 ページ）。

その他の情報

Q1：LED 類が消灯している

症状	原因	対策
マイクインジケータが点灯しない	本機の電源が入っていない	ACアダプターおよび電源コードが正しく接続されていることを確認する。
	電源コードがコンセントに接続されていない	コンセントから外れているときは、正しく差し込み直す。
	主ブレーカーや配線別ブレーカーが切れている	ブレーカーが「切」になっている場合は、「入」にする。
		ブレーカーが「入」になっている場合は、一度「切」にしてから再度「入」にする。
	停電している	停電中は、復旧するまで待つ。
	コンセントに電気が来ていない	コンセントや電気配線の修理を依頼する。
	マイクミュート状態になっている（MIC MUTE キーのLEDが点灯している）	MIC MUTE キーを押してLEDを消灯させ、マイクミュート状態を解除する。

Q2: 「WEB 設定ページ」で設定できない

症状	原因	対策
「WEB 設定ページ」を表示できない	パソコンのネットワーク設定が不適切（LAN 上の他のパソコンやネットワークプリンタも使用できない）	LAN ボードや LAN カードの設定をやり直して、パソコンを再起動する。
		パソコンの IP アドレスをリセットする。
	不適切な LAN ケーブルで本機とネットワークを接続している	適切な種類のケーブル（ストレートケーブルまたはクロスケーブル）を使用する。
		カテゴリ 5 以上の LAN ケーブルを使用する。
	本機が誤動作している	本機を初期状態に戻してから、設定をやり直す（49 ページ）。
	URL 指定が不適切である	本機を始めて使うときや工場出荷状態に戻した後は、「http://」（本機の初期画面に表示される IP アドレス）/」にアクセスする。
	パソコンの Web ブラウザで Proxy（プロキシ）サーバーを使用している	プロキシを正しく設定する。
		Windows 版 Internet Explorer 6 の場合： メニューから「ツール」→「インターネットオプション」→「接続」タブ→「LAN の設定」を開き、「プロキシサーバーを使用する」のチェックをはずす。
	ネットワーク障害が発生している／ファイアウォールで通信が遮断されている	システム管理者に問い合わせ、ネットワークの状態を確認する。
パスワードを入力しても「WEB 設定ページ」が表示されない	パスワードが間違っている（パスワードエラーが表示される）	マスターパスワードを入力し、パスワードを解除する（28 ページ）。
設定内容が元に戻ってしまう	設定後に「設定」や「登録」をクリックしていない	「WEB 設定ページ」で設定を変更したときは、必ず「設定」または「登録」をクリックして設定を保存する。クリックせずに画面を閉じると、設定内容は保存されない。

Q3: 通話できない

症状	原因	対策
発信できない	IP アドレスを正しく入力していない	相手の IP アドレスを確認して、正しい IP アドレスを入力する。
	相手の IP アドレスが変わってしまった	相手の IP アドレスを確認して、正しい IP アドレスを入力する。
	通信がファイアウォールで遮断されている	IP アドレスを指定して発信する場合は、ファイアウォールを越えて発信することはできない。SIP を使用して発信する場合は、システム管理者に相談する。
	ネットワーク障害が発生している	障害が解消されるまで待つ。
		システム管理者に相談する。
	本機と相手の接続モードが異なる	メッシュ接続とカスケード接続は混在できない。双方の接続モードを合わせる（20 ページ）。
	本機と相手の IP/SIP 設定が異なる	SIP アドレスを使用しているプロジェクトフォンと、IP アドレスを使用しているプロジェクトフォン間では通話できない。必要に応じて SIP サーバーの使用を入／切して、双方の設定を合わせる（21 ページ）。
	アドレス帳に登録されている SIP アドレスが正しくない	正しい SIP アドレスを登録する（30 ページ）。

症状	原因	対策
発信できない	SIP サーバーが動作していない	システム管理者に相談する。
	SIP サーバーに相手の SIP アドレスが登録されていない	システム管理者に相談する。
	本機がダイヤル種別の設定が接続する電話回線の種別と異なっている	電話回線の種別を確認し、本機のダイヤル種別の設定を変更する。
	本機の対応していない電話回線（デジタル回線など）に接続している	電話回線の管理者に相談する。
着信できない	相手が入力した IP アドレスが正しくない	相手に正しい IP アドレスを連絡して、再入力してもらう。
	通信がファイアウォールで遮断されている	IP アドレスを指定して発信する場合は、ファイアウォールを越えて発信することはできない。SIP を使用して発信する場合は、システム管理者に相談する。
	ネットワーク障害が発生している	障害が解消されるまで待つ。
		システム管理者に相談する。
	本機と相手機の接続モードが異なる	メッシュ接続とカスケード接続は混在できない。双方の接続モードを合わせる（20 ページ）。
	本機と相手機の IP/SIP 設定が異なる	SIP アドレスを使用しているプロジェクトフォンと、IP アドレスを使用しているプロジェクトフォン間では通話できない。必要に応じて SIP サーバーの使用を入／切して、双方の設定を合わせる（21 ページ）。
	SIP サーバーが動作していない	システム管理者に相談する。
相手の音声がかえらない	相手が MIC MUTE ボタンを押している	相手側のプロジェクトフォンで MIC MUTE を解除する。
	必要な伝送帯域が十分に確保できていない	通話に必要な伝送帯域が確保されているかどうか確認する（10 ページ、54 ページ）。
音声が途切れる	ネットワーク障害が発生している	障害が解消されるまで待つ。
		システム管理者に相談する。
	ケーブルが抜けた／ケーブルの接続が不安定	LAN ケーブルまたはモジュラーケーブルをしっかりと接続する。
	エンコード方式の設定が正しくない	エンコード方式の設定を変更する（25 ページ）。

Q4: その他の問題

症状	原因	対策
音声の遅延が発生する	必要な伝送帯域が十分に確保できていない	通話に必要な伝送帯域が確保されているかどうか確認する（10 ページ、54 ページ）。
ハウリングが発生する	壁の側で使用している	壁の側を避けて設置する。
	本機の近くに物を置いている	本機のマイクの前にはできるだけ物を置かないようにする。
	反響の大きい部屋で使用している	本機のマイクの前を避けて、吸音性の高い物体を部屋に置く。
		「ルームサイズ」の設定値を変更する（25 ページ）。
パスワードを忘れてしまった	—	反響を減らすため、あまり大きな声で話さない。
		マスターパスワードを入力し、パスワードを解除する（28 ページ）。
時刻を設定しても保存されない	内蔵の時刻情報メモリー用電池が消耗している	サポート窓口に連絡し、内蔵電池の交換サービスを受ける。

本機の設定を初期化する

本機の設定内容を工場出荷状態に戻すことができます。

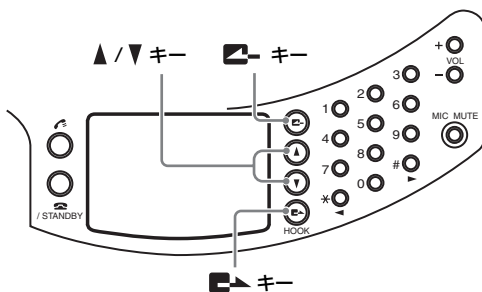
ご注意

設定内容を工場出荷時の状態に戻す場合は、以下の点にご注意ください。

- 初期設定値が存在する設定は、初期設定値に変更されます。
- 操作を完了した後に、設定内容を元の状態に戻すことはできません。

本体のキー操作で初期化する

以下の手順で初期化します。



1 **Enter** キーを繰り返し押して、初期画面を表示する。

2 初期画面で **Down** キーを押す。
メニュー画面が表示されます。

メニュー
> 1. 設定
2. 通話履歴
3. オンライン



3 **Up** または **Down** キーを押して「設定」を選び、**Enter** キーを押す。

設定メニュー画面が表示されます。

設定メニュー
> 1. ネットワーク設定
2. 電話設定
3. サウンド設定



4 **Up** または **Down** キーを押して、「出荷状態に戻す」を選ぶ。

設定メニュー
4. 環境設定
5. 設定の保存と変更
> 6. 出荷状態に戻す



※ヒント

パスワードを忘れてしまった場合は、マスターパスワードを入力します。詳しくは「パスワードの設定」(28ページ)をご覧ください。

5 **Enter** キーを押す。

「出荷状態に戻す」画面が表示されます。

出荷状態に戻す
> 1. はい
2. アドレス帳を残す
3. いいえ



6 「はい」または「アドレス帳を残す」を選び、**Enter** キーを押す。

本機の設定内容が初期化され、再起動します。

※ヒント

「アドレス帳を残す」を選択した場合はアドレス帳のデータは保存されます。

初期化を中止する場合

手順6で **Exit** キーを押すか、「いいえ」を選びます。

「WEB 設定ページ」から初期化する

以下の手順で初期化します。

1 「WEB 設定ページ」で「出荷状態に戻す」をクリックする。

「出荷状態に戻す」画面が表示されます。

Setting Home > 出荷状態に戻す

出荷状態に戻す

アドレス帳以外を出荷状態に戻す

通話中はこの設定を更新できません。通話を終了してから設定して下さい。

データベースの状態

更新できます

2 「出荷状態に戻す」または「アドレス帳以外を出荷状態に戻す」をクリックする。

本機の設定内容が初期化され、再起動します。

※ ヒント

「アドレス帳以外を出荷状態に戻す」を選択した場合は、アドレス帳のデータは保存されます。

サポート用の設定情報を取得する

トラブル時の問題解決用として、本機の設定情報をパソコンにダウンロードして保存できます。

設定情報を取得する

本体の設定画面や「WEB 設定ページ」で設定した本機の設定情報を、パソコンにダウンロードして保存します。

1 「WEB 設定ページ」の「設定情報をダウンロードする」をクリックする。

「ファイルのダウンロード」画面が表示されます。

2 「保存」をクリックする。

「ファイルの保存」画面が表示されます。

3 ファイル名とファイルの保存場所を指定し、「保存」をクリックする。

設定情報がパソコンに保存されます。

ご注意

設定情報ファイルはサポート用として使用します。通常のソフトウェアで内容を確認したり編集したりすることはできません。

その他の情報

- 1 「WEB 設定ページ」の「Syslog 設定」をクリックする。

Svslog

- Syslog ネットワーク出力 ☐ 出力する
☒ 出力しない

Syslog ホストアドレス

- ・ **Debug モード**：問題発生時の内部動作確認に使用できる、デバッグログを送信します。
- ・ **Info モード**（初期設定値）：発生したイベントや本機の動作状況などの、稼働ログを送信します。
- ・ **Notice モード**：正常な動作状態の稼働詳細ログを送信します。

手順4で指定したホスト宛に、Syslogが送信されるようになります。

サポート窓口のご案内

お問い合わせの前に

本書をもう一度ご確認ください

本書をよくお読みになり、問題が解決できるかどうかご確認ください。

お問い合わせ窓口

本機に関する技術的なご質問やお問い合わせは、下記へご連絡ください。

お客様ご相談センター

TEL : 053-460-2822

ご相談受付時間

9時～12時、13時～17時

(土・日・祝日、弊社定休日、年末年始は休業とさせていただきます)

お問い合わせページ

<http://www.yamaha.co.jp/projectphone/>

主な仕様

総合

外形寸法（幅×高さ×奥行き）
..... 283.4 mm × 51.5 mm × 297.5 mm
質量 1.4 kg（ACアダプター含まず）
電源 AC100 V（50/60 Hz）
消費電力 最大 8 W

動作環境条件

周囲温度 0 ~ 40 °C
周囲湿度 20 ~ 85%（結露しないこと）

電波障害規格

..... VCCI クラス A

LAN インタフェース

イーサネット 10BASE-T/100BASE-TX
プロトコル IEEE802.3/IEEE802.3u
通信モード
..... オートネゴシエーション、固定設定
コネクタ RJ-45
MAC アドレス 本機ラベルに表示
極性 ストレート / クロス自動判別

LINE インターフェイス

..... アナログ電話モジュラーコネクタ（RJ-11）

音声入出力インターフェイス

..... ステレオアナログ入出力（各 1 系統）
コネクタ ミニジャック

信号処理

3ch 適応型エコーキャンセラー
ノイズリダクション
マイク / スピーカーアレイ制御

オーディオ

アレイ型マイク（指向性制御）
ゾーン収音機能
スポット収音機能
話者自動追尾機能
アレイスピーカー
点音源制御、指向性制御
マルチモード（音源定位モード）
..... 最大定位数量：3 地点
モノラルモード（モノラル出力モード）
音量：85 dB
周波数帯域
300 Hz ~ 7 kHz（ワイドバンド）

通信

接続地点（IP による接続の場合）
..... メッシュ接続（最大 4 地点）
..... カスケード接続（最大 8 地点）
接続地点（電話回線による接続の場合）
..... 1 地点
音声 CODEC / 周波数特性（下の表もご覧ください）
..... G.711 拡張独自方式（fs = 16 kHz） / 300 Hz - 7 kHz
..... G.711（ μ -law） / 300 Hz - 3.4 kHz
..... G.711（A-law） / 300 Hz - 3.4 kHz
..... G.726 - 32 / 300 Hz - 3.4 kHz
DHCP、SIP 準拠
SNTP サーバーによる時刻同期
SIP ポート番号 5060(UDP)
RTP / RTCP ポート番号 57000 ~ 57010(UDP)

付属品

AC アダプター（1 個）
電源コード（1 本）
LAN ケーブル（1 本）
モジュラーケーブル（1 本）
取扱説明書（基本操作編）（1 冊）
取扱説明書（設置・設定編）（1 冊）
保証書（1 枚）

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機使用上の必要伝送帯域

	必要伝送帯域（上り・下りそれぞれ）		
	2 拠点通話	3 拠点通話	4 拠点通話
G.711 拡張独自方式	160 kbps	320 kbps	480 kbps
G.711 μ -law / A-law	90 kbps	180 kbps	270 kbps
G.726 - 32	60 kbps	—	—

本機を譲渡／廃棄する際のご注意

本機に保存されている設定内容には、アドレス帳や通話履歴などの情報が含まれています。設定内容を初期化せずに譲渡／廃棄すると、これらの情報が悪意のある第三者によって悪用されるおそれがあります。本機を譲渡／廃棄する際は、設定内容を初期化してください。
初期化のしかたについては、「本機の設定を初期化する」（49ページ）をご覧ください。

ご注意

本機を譲渡する際は、取扱説明書などの付属品もあわせて譲渡してください。



お客様相談センター
TEL 053-460-2822

ご相談受付時間
9 時～12 時、13 時～17 時
(土・日・祝日、弊社定休日、年末年始は休業とさせていただきます)

お問い合わせページ
<http://www.yamaha.co.jp/projectphone/>

© 2006 YAMAHA CORPORATION All rights reserved.